

特定非営利活動法人ほっぷの森
2024 年度 事業報告（総括）

特定非営利活動法人ほっぷの森

理事長 菊田 俊彦

2008 年「特定非営利活動法人ほっぷの森」を立ち上げ就労移行支援事業がスタートした。「障がいのある方の就労支援の仕組みを作りたい」という前理事長の強い思いと行動力のもと、様々なケースから学ばせていただき今に繋がっている。

就労が決まったスタッフの喜び、就労し頑張っている姿、日々の活動での変化、レストランでのお客様の笑顔、見て感じることで、やりがいや生きがを感じ、様々な困難を乗り越える原動力となってきた。

長町遊楽庵びすた〜りの閉店、TFU Cafeteria Olive での全員の雇用。コロナ感染拡大等、ここ数年先の見えない状況が続いてきた。物価の高騰、働き方改革、賃金上昇、A 型事業所の法改正等、世の中の変化も大きく収入と支出のバランスが崩れ、とても厳しい 2024 年度となった。又、そんな中でも変化に必死に向き合いながら新しい仕組みを模索し、各事業所とも前向きに取り組んだ 1 年となった。

就労準備支援センターあぼかぼは 2 年が過ぎ、パートナーの頑張りのお陰でほっぷの森カレッジとしての取り組みが一步一步良い方向へ進んでいる。特に月いちカレッジの取り組みは障がいがある、無しに関わらず、新たな視点からほっぷの森の取り組みを知っていただく機会として多くの方へ浸透してきている。就労準備支援センターあぼかぼで受託した自動車事故被害者支援体制等整備事業（国土交通省）は、病院や支援機関と積極的に繋がり、高次脳機能障害への取り組みへの理解と連携強化に繋がってきている。

外に向けての取り組みや広がり、障がいのある方の就労支援の可能性を広げ、スタッフの喜びに繋がっていると思う。又、事業として成り立つ仕組み作りに向けて、それぞれが更に新しいバージョンへとアップデートし取り組んでいかなければならない。

今年度の頑張りを次年度の成果に繋げ、法人にとってより良い変化の 2025 年度としていきたい。

「ほっぷの森カレッジ」、新たな枠組みでの2年間を振り返って

ほっぷの森カレッジ学長 渡辺祥子

(ほっぷの森副理事長)

2023年春、自立訓練事業として「就労準備センターあぼかぼ」を立ち上げ、法人の中でも一番長い実績を持つ就労移行支援事業の「就労支援センターほっぷ」を組み合わせた「ほっぷの森カレッジ」の枠組みでの取り組みを始めて丸2年。ようやく形が見え、目指す方向が見えてきたように感じる。

課題であった、あぼかぼ・ほっぷ双方での入口の部分から日々のプログラムでの具体的な連携など、「ほっぷの森カレッジ」だからこそできる型のようなものを見える化するべく、日々様々なチャレンジを行ってきた。

こうした取り組みを通して、連携がもたらす大きな可能性を強く感じたことから、法人の持つ財産である各事業所間の連携（関りを深め活性化させること）で得られるものがかなりあるのではないかと考えるようになっていく。

それぞれの持つ特性や強みをいかし、その力が交差することによる新たな可能性など、事業所が持つ力の掘り起こしや連携を試みてみたいと思うようになった、2024年度であった。

また、法人事業所間の交流・連携による新たな可能性のほかに期待したいのは、ほっぷの森が持つ外部との深いかかわりや広がりである。これまで築いてきた関係はもちろん、動かないでいては先細りしてしまうだけなので積極的に外に出ていくこと、さらに月に一回開催している「SUNDAY月いちカレッジ」を通しての関りなど、こうした関りを、法人の力に、ひいてはその力の恩恵を受けるスタッフの力になるよう、場を整え、様々なチャレンジをしていきたいと思う。

2024（令和6）年度 就労支援センターほっぷ 事業報告

1. 利用者の推移と方向性

2024年4月に1名が就労、1名が復職し10名でスタートしている。その後7名が新規利用、1名が利用満了、1名途中退所、6名が就労、1名が復職しているので3月末現在で8名が利用している。そのほか就労アセスメントで1名が利用していた。2025年5月から定員を14名から12名に変更する。引き続き、医療機関などに営業をかけていき日々の利用者数12名を目指していきたい。

2. プログラムの取り組み ※別紙参照

2024年度も毎朝の「始めのミーティング」からコミュニケーションを取りながら活動している。セルフトレーニングではパソコン利用より作業を行うスタッフが多く、他のスタッフとコミュニケーションを取りながら行うことが多かった。コミュニケーション術の課外授業を定期的の実施して面接の練習だけではなく個々の課題に取り組むこともできた。運動プログラムや行事などはあぽかぽと合同で実施している。内容によってはあぽかぽのプログラムに参加スタッフもいて今後も相互間で情報共有しながら実施していきたい。

3. 就労目標と支援

2024年度は各種面接会も通常開催になっていて面接をする機会が増えている。ハローワークに出ている求人もすぐに応募ではなく事前の見学や実習を行うことが増えてきているのでミスマッチは少ないように感じる。見学や実習のタイミングからパートナーも同席し就労後のフォローアップにつなげている。失業給付を受けているスタッフもいるので、あらためて働き方をいろいろ検討していきたい。就労経験が少ない方もいるので様々な仕事を知る機会も作っていきたい。今後も宮城県ビジネスアシスタント事業など実習する機会を増やして就労の準備を進めていきたい。

4. フォローアップの取り組み・就労定着支援事業とジョブコーチ支援との連携

2024年度は就労するも6か月経過する前に離職した方が2名いた。2名とも面接会から就労しているので事前の求人検討や面接時の対応を丁寧に行っていきたい。ジョブコーチ支援の機会はなかったが求人内容によっては宮城障害者職業センターと情報共有し準備していきたい。今年度も就労定着支援が終了する方がいるので今後のフォローアップについて個別で対応していきたい。

5. ご家族支援

利用開始時にご家族の方にも説明し各種手続きなど一緒に確認しながら対応している。また就労決定の際には働き始めてからのフォローアップについて説明しご家族にも安心していただいている。2024 年度は家族交流会を実施することができなかったので今後は先輩会などに合わせて実施していきたい。

6. 各関係機関との連携

宮城県事業である「障害者就労における連携構築支援業務」（受託：アデコ）や「障害者雇用推進事業」（受託：シグマテック）からの見学会や研修会にも積極的に参加している。宮城障害者職業センターのジョブコーチ推進協議会など参加し情報共有している。宮城労働局主催の企業向け障害者雇用促進セミナーでは、宮城障害者職業センター、仙台にしまら（マクドナルド）の担当と一緒に事例を発表している。2024 年度も就労支援機関 EXPO にも参加し多くの企業担当者と情報交換している。

7. 職員研修、スキルアップ

仙台市障害者就労支援センターや宮城県事業のアデコやシグマテックから案内いただく連絡会議や研修会に積極的に参加し他事業所のかたとも情報交換している。またハローワーク活動や企業見学、実習にも同行し経験を積んでいく。2024 年度は後期宮城県ビジネスアシスタント事業を受託し就労（実習）現場で支援する機会もありました。今後もそのような機会を作っていきたいです。

就労支援センターほっぷ
サービス管理責任者
貫洞 正一

令和6年度 就労支援センターほっぷ 年間実施事業報告

	令和6年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和7年1月	2月	3月
利用終了者状況 終了日 →終了後状況 終了者(10名) ・一般就労:7名 ・復職:1名 ・生活訓練:1名 ・満了:1名	・4/1～東北電力ネットワーク(復職) ・4/1～宮城県警察			・7/31 利用中止→あぼかぼへ ・7/31 利用満了→委託訓練	・8/21～ALSOK		・10/1～仙台市	・11/1～ホットマン ・11/18～ホットマン	・12/1～ロピア ・12/2～仙台陸運(復職) ・12/3～東北労災病院	※1名期間満了したが実習を行い3月から就労開始		・3/10～シーユーシーホスピス
新規利用者数 紹介元 →利用開始日(名)	2名 ・4/8～直接 ・4/8～泉障福C	1名 ・5/15～HW塩釜		1名 ・7/1～東北大学病院	3名 ・8/1～アビリティーズジャスコ ・8/5～はたらぼーと ・8/6～太白障福C	1名 ・9/18～法人内		※らしくワーク 1名	1名 ・12/3～仙台リハ病院	1名 ・1/20～再利用 ※らしくワーク 1名		2名 ・就労アセス
利用数 出席率(平均者数)	10名 89.0%(8.5名)	10名→11名 94.2%(10.0名)	11名 91.4%(10.1名)	11名→12名 89.8%(10.8名)	11名→12名→13名→12名 91.0%(11.2名)	12名→13名 92.0%(11.5名)	12名 92.0%(11.0名)	10名→11名→10名 89.0%(9.3名)	7名→8名 89.3%(7.1名)	8名→9名 82.1%(7.0名)	8名 80.9%(6.5名)	8名→9名→10名 82.2%(7.6名)
月稼働日数(土、日)	21日(他土、日 2日)	21日(他土、日 2日)	22日(他土、日 1日)	22日(他土、日 1日)	18日(他土、日 2日)	20日(他土、日 0日)	22日(他土、日 1日)	20日(他土、日 1日)	20日(他土、日 2日)	19日(他土、日 1日)	19日(他土、日 1日)	20日(他土、日 2日)
見学者者数 (紹介元)	5名 ・直接 ・東北大学病院 ・東北大学病院 ・つくしんぼ黒川 ・宮城野障福C	3名 ・ここねっと ・どんまい白木さん ・内科佐藤病院	0名	6名 ・はたらぼーと ・アビリティーズジャスコ ・太白障福C ・仙台天使園 ・東北医科薬科大学病院 ・直接	3名 ・どんまい白木さん ・せんだんホスピタル ・HW仙台	2名 ・どんまい梅澤さん ・太白障福C	1名 ・東北医科薬科大学病院 ※らしくワーク 2名	5名 ・太白障福C 3名 ・仙台リハ病院 ・直接 ※らしくワーク 1名	1名 ・直接	2名 ・仙台リハ病院 ・就労アセス ※らしくワーク 3名	0名	2名 ・清山会 ・直接 ※らしくワーク 1名
体験利用者数	2名 ・泉障福C ・HW塩釜	4名 ・HW塩釜 ・つくしんぼ黒川 ・どんまい白木さん ・再利用	1名 ・再利用	3名 ・はたらぼーと ・アビリティーズジャスコ ・太白障福C	0名	1名 ・法人内	0名 ※らしくワーク 2名	1名 ・仙台リハ病院 ※らしくワーク 1名	1名 ・直接	1名 ・再利用 ※らしくワーク 1名	1名 ・就労アセス	2名 ・清山会 ・再利用
障害者就職面接会		みやぎ障害者合同企業説明会・説明会			みやぎ障害者合同企業説明会	ふれあいワークフェア			みやぎ障害者合同面接会		ふれあいウィーク→参加せず	
模擬面接						・面接会对策講座 ・模擬面接						
セミナー・講習会 企業講話		・企業講話(仙台にしむら)										
企業訪問	※随時個別で対応											
個別企業訪問		・仙台国税局	・カメイ(Dr.Drive) ・ジョブタス東仙台(B型) ・結(B型) ・東北労災病院 ・仙台医療センター	・HELLOS多賀城	・東日本リフトサービス	・沖野老人福祉センター ・にしき食品	・ホットマン ・ロピア	・ミツイ			・ReHOPE仙台若林	・アパホテル ・青葉福祉会
企業(職場)実習 →経過			・カメイ(Dr.Drive) →不採用	・HELLOS多賀城 →応募せず			・ロピア→採用 ・東北労災病院→採用	・沖野老人福祉センター →不採用			・ReHOPE仙台若林 →採用	
体験実習先 (体験者数)							・宮城県ビジネスアシスタント 事業(1名)	・宮城県ビジネスアシスタント 事業(1名)	・宮城県ビジネスアシスタント 事業(1名)	・宮城県ビジネスアシスタント 事業(1名)	・宮城県ビジネスアシスタント 事業(2名)	・宮城県ビジネスアシスタント 事業(1名)
法人内実習												
ハローワーク活動	随時必要時に活動											
先輩会		18日	1日				19日	9日				
プログラム												
(毎日実施)	グループミーティング(始めのミーティング・終わりのミーティング)、セルフトレーニング											
(週1回実施)	Bトレ、就職に向けて、メモリーノート、文章理解、文章表現、スポーツコミュニケーション(卓球バレー、バタンク・段ボールバスケ、ペットボトルボーリング、卓球他)、ストレッチ、作業と身体											
(月1回程度実施)	コミュニケーション術、殿プロ、姫プロ、仕事について、グループワーク、リズム体操、フロアホッケー、健康プログラム(ウォーキング)											
フリープログラム	13日、21日	11日、26日	16日	20日	18日、24日	なし	26日	16日	14日、22日	26日	15日	2日、22日
(随時実施)	・春の行事(仙台市天文台) ・避難訓練 ・オンライン体操教室	・オンライン体操教室 ・栄養管理講座	・健康増進センター ・オンライン体操教室	・健康増進センター ・避難訓練	・夏の行事(仙台市科学館) ・ITサポートPC講習 ・オンライン体操教室	・健康増進センター ・オンライン体操教室	・オンライン体操教室 ・栄養管理講座	・オンライン体操教室 ・秋の行事(八木山動物公園) ・栄養管理講座	・もりのみやこのふれあいコンサート ・ITサポートパソコン講習 ・健康増進センター ・オンライン体操教室	・健康増進センター ・オンライン体操教室	・ほっぷの森フェスティバル	・オンライン体操教室 ・避難訓練
家族見学・講習会	※実施なし											
研修生 ボランティア等					・東北文化学園大学(1名) ・東北福祉大学(3名)	・東北福祉大学(1名) ・仙台赤門短期大学(1名)	・仙台赤門短期大学	・東北福祉大学(1名)				
会議、講習会、研修会等	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・就労移行支援事業所等連絡会議 ・障害者雇用促進セミナー ・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・就労移行支援事業所等連絡会議 ・障害者雇用促進セミナー ・サポネットあおばのつどい	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・高次脳機能障害支援者ステップアップ研修	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・宮城県高次脳機能障害リハビリテーション講習会 ・障害者雇用促進セミナー ・就労移行支援事業所等連絡会議 ・宮城全域意見交換会	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・地域連携支援研修会(奈良) ・若年性認知症研修会 ・高次脳機能障害事業所職員ネットワーク研修会 ・障害学生支援と就労移行に関する情報交換会	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・若年性認知症研修会 ・宮城県高次脳機能障害者支援普及事業専門研修会 ・就労と定着に関する意見交換会	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・てんかん研修	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・関係機関・企業・教育機関情報交換会 ・高次脳機能障害地域支援者研修会 ・就労選択支援について学ぶ ・県南エリア定着勉強会 ・サポネットあおばのつどい ・障害者雇用を考える研修会	・企業連携 ・AKG ・月いちカレッジ ・宮城県若年性認知症自立支援ネットワーク会議
その他						宮城障害者職業能力開発校委託訓練(9/27～12/20)1名						

◎毎日実施のプログラム				
<プログラム名> 目的・目標	実施概要	成果及び今後の課題	報告者	
<始め・終わりのミーティング> ・メモリーノートや日報等を活用しながら、1日の流れを把握し、自ら時間を意識して動く ・スタッフが各役割を担当すること で、スタッフが主体となり、自己表現の場とする	○毎日実施 ○始めのミーティング（朝） ・出席・体調確認→一分間スピーチ→今日の話題 ※水曜日はこの後ストレッチ実施 →発声・挨拶練習→ラジオ体操→ブレインジム →スケジュール・取り組み確認、連絡事項等 ・見学者への対応 ○終わりのミーティング（帰り） ・Ｂトレ→本日の報告・振り返り等 →翌日の出欠・スケジュール確認、連絡事項等 →掃除（各当番制） ※水曜日は15時終了の為、Ｂトレと掃除なし	・各担当マニュアルを一覧形式や日めくり形式等、工夫をしてスタッフの症状に合わせ、進行のしやすさにつなげた。 ・1分間スピーチや今日の話題等、毎日発言できる場があることで、話す事、伝えることの意識につながっている。 ・日報整理やメモリーノート記入に関しては、タイピングや書き方の声かけが必要な場面が多かった。 ・セルフトレーニングでやることを始めのミーティング時に確認するよう声かけをしながらおこなった。 ・Ｂトレの進め方に迷うスタッフも見られたため、一連の流れについてマニュアルを工夫し、取り組めた。 ・時間を見ながらの行動につながるようにデジタル時計の活用や声かけをし、時間の意識付けをおこなった。	箱崎	
<セルフトレーニング> ・個別支援計画に基づき、各自必要なトレーニングに取り組み ・取り組む意味を知り、自分に必要なトレーニングを主体的に取り組む ・取り組んだ内容を振り返り、確認し、今後にかす	○週4～5回、1回1～2時間で実施。 ・高次脳機能バランスー ・OAワーク：数値チェック、物品請求書、PC入力 ・各ドリル：漢字、計算、脳トレ、ナンブレ、塗り絵 他 ・パソコン作業：文書入力、エクセル・ワード練習 ・軽作業：シュレッダー、ピッキング、紙の仕分け、封筒づくり、ハンコ押し、パンフレット折り、カタログ作成 他 ・就職活動準備：履歴書・職務経歴書作成、面接準備 ・他：メモリーノート整理、行事等打と合わせ、個別面談	・メモリーノートに作業一覧はあるものの、そこから選んだり、何をするか決められずにいる方がおり、作業系なのかパソコン系なのか朝の時点の確認をし、個別に声かけをしながら対応した。 ・履歴書や職務経歴書をパソコンで作成する他、求人検索や面接練習、ハローワーク活動も時間の中で取り組めた。 ・パンフレット折り作業、シール貼り作業では折る箇所、貼る箇所がわかるようマニュアルを作成して仕上がりが一になるよう工夫した。	箱崎	

◎週1回程度実施のプログラム	実施概要	成果及び今後の課題	
＜プログラム名＞ 目的・目標	実施概要 ○週4回（月・火・木・金）、終わりのミーティングで実施 ・「聞く注意ドリル」から曜日毎に種類を分け実施。 ・聞き取りした内容は順番に読み上げ答え合わせを実施。 ○週1回1時間程度で実施 ・様々な教材や脳トレ・ゲームなどを使用し、実施。→字を上手に書く練習き→3つの単語を記憶→数字の書き取り（3桁20問・4桁20問） ○週1回、1時間程度で実施 ・取り組み目的や活用方法を毎時間読み上げ、板書確認 ・報告事項やプログラム内容等をメモをもとに確認 ・翌週のプログラム内容や予定の読み上げ、書き込み ・各ページの使用状況や必要性・書き込み方等を確認し、活用の仕方、記入例の提示 ・メモリーノートやプリント類等の保管のしかたや分類等の確認と整理の実施 ○週に1回、1時間程度で実施 ・作文：テーマを設け、テーマに沿って書く。（15分） ・書く：漢字の読み書き、オノマトベの表現、慣用句、四字熟語、尊敬語謙譲語、言葉の言い換え等 ・イメージ力と理由づけ：文章の要約、物語の続きを考える等 ・表現力：インタビュー記事作成（情報の聞き出し、まとめ） イラストの風景を言葉だけで伝える、私のトリセツ等 ○週に1回（毎週木曜日）1時間程度で実施 ・「川柳の発表」 現スタッフや先輩からの川柳の発表と内容の理解 ・「文章の朗読(音読)と理解(要約)」 テキスト：新聞記事からの抜粋（「声」「どう思いますか」「いわせてもらおう」「天声人語」等	成果及び今後の課題 ・終わりのミーティングでは、全体の進み具合を意識しながら読み上げ、声の大きさや速さ等のトレーニングとなっている。また、書き手側は、集中して聞くことを一定時間維持するトレーニングとなった。 ・答え合わせの際に、リズムよく進むにつれて、スピードが早くなりすぎてしまう事が多くみられ、体験の方やまだ利用して間もない方などがいけなくなることがあった。早くなった時には声がけをしながら対応していく。 ・楽しみながら行えるよう、脳トレの問題を多く行った。2～3名のチームを作ってゲーム形式で行うことで、コミュニケーションを取る機会を増やすことができた。	今野
＜メモリーノート＞ ・メモリーノートを教材として活用すること、スケジュール・行動・情報等の自己管理をする ・メモを習慣とすることで記憶の補完につなげる ・就労後の活用につなげる	○週1回、1時間程度で実施 ・取り組み目的や活用方法を毎時間読み上げ、板書確認 ・報告事項やプログラム内容等をメモをもとに確認 ・翌週のプログラム内容や予定の読み上げ、書き込み ・各ページの使用状況や必要性・書き込み方等を確認し、活用の仕方、記入例の提示 ・メモリーノートやプリント類等の保管のしかたや分類等の確認と整理の実施 ○週に1回、1時間程度で実施 ・作文：テーマを設け、テーマに沿って書く。（15分） ・書く：漢字の読み書き、オノマトベの表現、慣用句、四字熟語、尊敬語謙譲語、言葉の言い換え等 ・イメージ力と理由づけ：文章の要約、物語の続きを考える等 ・表現力：インタビュー記事作成（情報の聞き出し、まとめ） イラストの風景を言葉だけで伝える、私のトリセツ等 ○週に1回（毎週木曜日）1時間程度で実施 ・「川柳の発表」 現スタッフや先輩からの川柳の発表と内容の理解 ・「文章の朗読(音読)と理解(要約)」 テキスト：新聞記事からの抜粋（「声」「どう思いますか」「いわせてもらおう」「天声人語」等	・毎時間、目的や活用方法の確認時に、就労後の活用につながるように様々な方法や工夫をスタッフにも聞きながら実施した。また、メモや確認がプラスになるよう意識しながら進めた。メモの必要性に対しての意識に差はあるが、個々の必要性に応じて対応していくように心がけた。 ・各ページの活用に関しては、書き方にこだわらず、スタッフと一緒に工夫の仕方を確認しながら、有効なページの使い方を具体的にに取り上げながら行った。 ・他のプログラムや始めと終わりのミーティングでの書き込みと確認をパートナーも意識しながら声がけをしたが、個々への対応に関しては、時間やタイミング等、工夫は必要と思われた。	平山
＜文章表現＞ ・イメージする力、文章構成力、コミュニケーション能力の向上につなげる ・自分の意志や意見を伝え、より円滑なコミュニケーションにつなげる	○週に1回（毎週木曜日）1時間程度で実施 ・「川柳の発表」 現スタッフや先輩からの川柳の発表と内容の理解 ・「文章の朗読(音読)と理解(要約)」 テキスト：新聞記事からの抜粋（「声」「どう思いますか」「いわせてもらおう」「天声人語」等	・作文では、様々な題材に取り組み、気持ちや考えを正確に伝える文章力を培うことができた。 ・コロナ禍で実施を控えていた「ほっぶカルタ」や「高次脳機能障害カルタ」などのコミュニケーションを取りつつ障害への理解を深めるワークを再開し、楽しみながら理解を深めることができた。 ・イメージを膨らませ、自分の思いや考えをまとめる意識をしてもらうために、新たなワークも実施し、表現力を高めた。	三塚
＜文章理解＞ ・朗読（音読）により、言語機能の強化と前頭葉機能の活性化を図る ・読む・聞く・理解(要約)する・伝達する力をつける ・考えや意見を伝え合い、自己理解・他者理解・相互理解を図る	○週に1回（毎週木曜日）1時間程度で実施 ・「川柳の発表」 現スタッフや先輩からの川柳の発表と内容の理解 ・「文章の朗読(音読)と理解(要約)」 テキスト：新聞記事からの抜粋（「声」「どう思いますか」「いわせてもらおう」「天声人語」等	・川柳に関しては、卒業した先輩や現スタッフから出して頂いた。出す方が固定されつつも、興味を持ち内容の意図を聞くことができた。 ・新聞記事から、様々なテーマを読み合わせ意見を聞いたり話したりすることで、普段意識しない事柄にも触れることができた。中には気持的に苦手な内容の方もおり、その際はパートナーに報告して、離れるなどの対応も出来ていた。 ・文章の朗読に関しては、皆とテンポを合わせることが難しい方や意見のやり取りでなかなか発言が難しい方もいたので、記事を順番でその方のペースで読んで頂くなど、出来るだけ皆が声を出せるような試みも行った。	平山 及川
＜就職に向けて＞ ・働くために必要なことや就労までの流れ、必要な準備を知り、学び働き続ける力をつける ・就労に向けて面接準備や就職活動を実施（ハローワーク活動、障害者合同面接会の参加）	○月1回（月初め）1時間で実施 ・個々で前月の振り返りをし、当月の就労に向けた目標や取り組みを立て、発表。 ○週1回1時間程度で実施 ・ハローワーク活動や企業訪問、実習、面接状況等の報告と共有 ・就職に向けての準備、ハローワーク登録の流れの確認 ・企業リサーチ、アクセスの調べ方の確認 ○面接練習 ・9月：ふれあいワークフェアに向けて、全員で実施 ・随時：個別で面接前に実施 ○面接会参加	○月1回実施（全体） ・使用する用紙を使いやすいファイルと書きやすい様式に変え、毎月の他に個別支援計画にも反映しやすいように3ヶ月毎の振り返りとその後に向けての欄を設けた。 ・前月の目標に対しての振り返りと今月の目標決めでは、出来るだけ具体的に取り組みめる内容を意識して決められるよう、書き進める際に個別で確認をするようにした。 ・各スタッフの発表を聞くことで、自分の目標や取り組みの参考にもしてもらった。 ○週1回程度実施 ・ハローワークの活用方法、求職登録の仕方、働き方について一緒に考えた ・個々の活動報告を行い今後の自分の活動についての参考にしている ・全体で求人検索を行い求人票の見方やポイントを一緒に確認した ・企業情報の調べ方、就業場所へのアクセスを一緒に調べた ・面接会の情報を全体で確認し具体的な活用法を検討した ・先輩会後に先輩が行った就職活動について情報共有した	平山 及川
＜スポーツコミュニケーション＞ ・チーム編成をし、コミュニケーションを図る ・ルールを把握し、ゲームを楽しむながら、体を動かすことに関心を持つ ・様々な道具を使うことで感覚や力加減を知る	○週1回、1回50分で実施 ・実施内容はスタッフの希望により決める →ベタング、段ボールバスケット、ボウリング、つむつむ倒し卓球、卓球バレー、ピアボン、等 ・ルールを確認しながら、ルールの中で競うこと、声を掛け合い 教えあう事、体を動かす事に関心を持つ事に意識しながら実施 ・準備、片付けまでコミュニケーションをはかりながらスタッフ中心で実施	・何をやりたいか前日までに希望を取ることで計画的に取り組むことができた。 希望する競技に1票入れていただく際、スタッフ同士でも相談している場面が見られた。 ・チーム分け、取り組みに向けた準備する時間をプログラム開始5分前に設定し、時間で動く意識づけに取り組んだ。 審判や役割をスタッフ自身が担当し、お互いに声をかけあって行っていた。 ・今後も実施内容をスタッフと考えながらプログラムの目的である楽しみながら体を動かしていきけるようにする。	及川

◎月1～2回程度実施のプログラム				
＜プログラム名＞ 目的・目標		実施概要	成果及び今後の課題	
＜スポーツプログラム＞ ・体を動かす習慣をつける ・自身の身体を意識することでケガの防止を図る ・ゲームのルール・やり方を覚え、スタッフ同士の連携や協力を図る ・コミュニケーションを取りながら行う		○ストレッチ：週1回水曜日の始めのミーティング後、20分程度で実施 ・スタッフが交代でリーダーとなり、手順書に沿って実施 ○フロアホッケー：月に1～2回。1回1時間で実施 ・セルフトレーニングの時間でゴール等をセッティング ・ルール確認をし、パス練習後5人一組のチームで実施 ○リズム体操：月1回1時間で実施(講師：檀崎たつみ様) ・ストレッチ後、音楽に合わせた全身運動を実施。	○ストレッチ ・ヨガマットの準備やその日のセルフトレーニングでヨガマットのアルコール消毒を作業として行った。 ・ヨガマットの消毒作業に関して、同じ人がやるケースが増えてきているため、来年度以降、掃除と同じように、当番制にするなどの検討を行っていく。 ○フロアホッケー ・動きの枠を設け、安全面に気を付けながら実施するも、熱いでぶつかってしまう場面もあり声掛けを要した。 ・今年度は動きの枠を調整しながら進めた。接触場面は大いに減ったが、それで、ゲームとして面白みが無くなるということはなく、皆さん楽しみつつコミュニケーションをしっかりとることが出来ていた。 ○リズム体操 ・音楽に合わせて体を動かすことを楽しみ、無理なくケガもなく運動できていた。	今野
		○仙台市健康増進センター ・6/14、7/5、9/20、11/15、12/6、1/31 計6回参加 ○オンライン体操 ・4/26、5/24、6/21、7/26、8/23、9/27 10/25、12/20、1/24、3/14 計10回参加 ○健康づくりオンラインセミナー 2/28 ○ウォーキング ・4/5（錦町公園）、6/10（花京院スクエア、榴ヶ岡3丁目公園）、9/9（外記丁通公園、五橋公園、X橋車町通元寺小路公園）、12/11（X橋車町通元寺小路公園）、3/10（錦町公園） 計5回実施 ○栄養管理講座 ・5/27、5/29、5/30 ・10/30、10/31、11/1 計6日実施	・増進センター担当職員の指導の下、ストレッチやマシンを使った筋トレに取り組むことが出来ていた。 ・血圧測定や身体を動かす中で、自分の身体の状態や健康を意識できるようになってきたが、中には、血圧を含め自身の健康状態の把握や管理、意識が難しい方もおり、パートナーからの声掛け・見守りが必要。 ・少人数で行っている分、職員の方に指導を頼みやすく、個別に指導してもらっている方もいてより効果的に実施できていた。 ・解散時間のメモは流れが定着していない方もいるため、声がけ確認をして、習慣化を図っていく。 ・ケガや事故なく、運動を楽しむことが出来ており、今後もスタッフそれぞれが楽しく体を動かせるよう、仙台市健康増進センター利用、オンライン体操教室の申し込みを行い、職員の方の協力を得ながら実施していく。 ・今年度はオンライン体操教室以外にも増進センター主催の健康に関するセミナーにも参加した。 ・ほっぶ周辺の公園を目標に散歩を実施。身体状況や体力を考慮して、近距離、中距離、長距離の場所を設定して実施した。	今野
＜脳と身体のプログラム＞ ・身体的なバランスの向上 ・作業を通して自分の身体状況や ・仕事に向けて体の使い方を知る		○月に1回、1時間程度で実施 ・作業：絵を描く、パズル、物作り、塗り絵、粘土 他 ・運動：ストレッチ、ラジオ体操、ブレインジム、コグトレ 他	・コグトレを取り入れることで力加減や物と自分との距離感を知るためのトレーニングを行うことが出来た。 ・ラジオ体操やブレインジムのそれぞれの効果や運動部位などの確認も実施することができた。	今野
＜グループセッション＞ ・ルールを確認することで活動への意識や参加につなげていく ・コミュニケーション能力を身につける		○月1回、1回50分～1時間で実施 ・グループワーク →定期的にほっぶルールについて確認 ・グループトーク →フリートーク	・何人か新しいスタッフが入るタイミングで、ルールを確認することで、スタッフだけではなく、パートナーにとっても、改めて確認する機会となっている。今年度からルールの中に、事務所を出入りする際に挨拶をすることを追加した。意見を出し合い、仕事を意識したマナーを考えるきっかけとなった。 ・各スタッフのことをより深く知ることができたり、一人の発言を広げて他の方の経験を知ることができするなどコミュニケーションの場であり、よい交流を生むことができた。パートナーもスタッフもお互いを知る機会となっている。	今野 及川
＜コミュニケーション術＞ ・ボイストレーニング(発声・群読)、姿勢、コミュニケーションワーク等の実践から学び、職場への応応を円滑にしている ・詩や本の朗読、講話から、言葉の心情を感じる ・ロゴセラピー的な考え方から自分や周囲との向き合い方等を考える		○月2回、1回1～2時間で実施 ○講話・朗読を聞く→考える・話す・共有する ・フランクルのロゴセラピーについての講話 ・いのちの言葉 ○ボイストレーニング：挨拶、接客5大用語等 ・発声、発音：腹式呼吸と鼻呼吸、姿勢、表情筋・滑舌 ○コミュニケーション ・メラビアンの法則 ・声による気持ちの伝え方・伝わり方	・ロゴセラピー的生き方の講座では、感想や印象に残った言葉を書き込めるようシートを配布。各スタッフがその時々テーマに対し、記入した内容を発表。自身に置き換え、振り返り、見つめなおす時間にもつながっている。 ・ボイストレーニングでは、姿勢、表情筋、呼吸法などのポイントを繰り返し実施。自主トレニングをしているスタッフもあり、特に言語障害のあるスタッフにとっては自宅でもできるトレーニングとして意識が高まっている。 ・通常のプログラム外にセルフトレーニングの時間を使って「課外授業」として希望者に個別のトレーニングを実施。面接練習、発声練習、面談等に取り組めた。担当者と1対1で話し、志望動機や言葉遣いの確認、考えていることを一緒にまとめる方も多く、それらを元に今後の目標を設定した。	及川 渡邊
＜表現のプログラム＞ ・様々な表現方法からコミュニケーションの手段を学び、体験し、社会と自身との関わり方、可能性を広げている ・様々な表現方法があることを知る		○月に2回、1回1時間程度で実施。 ○2/9（日）ほっぶの森フェスティバル	パワーポイントを使い、講義形式で「表現」についてお伝えした。門脇がこれまで経てきた表現遍歴と、国内外の具体的な作品事例を示しながら「いろいろな表現がある」「アートの表現とデザインの表現の違い」「表現することは、自分を伝える手段で、ひとを知る手段」「表現することは、生きていることのあかし」といったテーマについて語り、学校で習った「美術」や一般に流布している「アート」にとどまらない幅広い表現があることをお伝えした。 「何かをつくる」グループと、「ひとの話を聞く」グループに分かれて活動を展開。「何かをつくる」グループは、画材で絵を描くことを中心に、コラージュなどの平面を制作。後半からは「ほっぶの森フェスティバル」の展示物の制作をしていくようになっていった。「ひとの話を聞く」グループは、当初はそれぞれの体験などを話したりしていたが、後半からは「ほっぶの森フェスティバル」の企画チームとなり、最初は玉コンやわたあめなど食を提供することを中心に企画を進めたが、いろいろな制約から難しいということになり、プログラムを紹介する企画づくりや「ほっぶの森フェスティバル通信」の発行を行った。 「ほっぶの森フェスティバル」は、普段はあまり交流のないほっぶの森の各事業所が、協働してひとつの事業を行う稀有な機会だが、なかなか協働する時間がないということもあり、10月から毎月、表現のプログラムで「ほっぶの森フェスティバル通信」を発行して、現在どのように準備が進んでいるかを伝えていった。 2/9(日)、「ほっぶの森フェスティバル」実施。約1年かけて準備を行い多くのお客様に来ていただいた中で、それぞれに役割を持ちながら行うことが出来た。ピアボン、ツムツム倒し、ほっぶカルタ、あばかば説明ブース、コラージュの説明など各持ち場に分かれて行った。一つの大きなイベントに向かって、準備を進める中でみんからも数多くの意見が出た。	今野 門脇

< 姫プロ > ・身だしなみ、仕草、マナー、言葉使い等「モテる（カッコイイ）男」を話し合いながら、目標を設定し、就職面接や就労後の人間関係の構築に活かす	○月1回、1回50分程度で実施 ・就労後の生活のことも視野に入れて休日の過ごし方（イベントなど）やお酒との付き合い方など意見を出し合った。 ・季節の変わり目などではちょよい服装について話している。服装に関しては女性の意見も参考にするため「姫プロ」との合同開催の機会も作った。	・就労後の生活のことも視野に入れて休日の過ごし方（イベントなど）やお酒との付き合い方など意見を出し合った。 ・季節の変わり目などではちょよい服装について話している。服装に関しては女性の意見も参考にするため「姫プロ」との合同開催の機会も作った。	貴洞
< 姫プロ > ・女性同士での交流を図る ・女性ならではの悩みや思いを気軽に話し合う ・身だしなみ等について学び、就労に活かす	○月1回、1回50分程度で実施 ・4月：TPOに合わせた服装を考える（姫プロ合同） ・5月：「オフィスで働く」をテーマにトーク ・6月：アジサイ作り ・7月：クイズ、自己紹介 ・8月：スクラップ作成 ・10月：秋の飾りをつくる ・11月：「寒さ対策」についてトーク（姫プロ合同） ・12月：すごろくトーク ・1月：ほっぶの森フェスティバルに向けて工作 ・2月：「スーツを着よう」グループトーク（姫プロ合同）	・創作作業は、スタッフのアイディアも盛り込みながら作成し、ほっぶ内に飾りつけた。和やかな雰囲気を進めることで、普段会話の少ないスタッフ間でも話せる機会となった。 ・すごろくトークでは、「相手の意見を否定しない」「言いつらいことは話さなくていい」等ルールを事前に伝えていたことで、スタッフ一人ひとりが安心して話す事ができた。 ・クイズ、自己紹介は、スタッフとパートナーで相談しながら進めていく工程で実施。クイズでは周りの方の意見を聞きながら答えを考えていく様子があった。お互いを知るきっかけになり、普段関わりの少ないスタッフ同士がコミュニケーションをとりあうこともできた。	及川箱崎
◎年数回（随時）実施のプログラム			
< プログラム名 > 目的・目標	実施概要 ○年に3回（月・月・月）実施。 ・春(4/12)：仙台市天文台 - 夏(8/2)：仙台市科学館 - 秋(11/22)：八木山動物園 ○流れ、実施内容 ・行事の目的確認をし、内容を話し合い、プレゼンし決定。 ・進行や書記等の各担当を決め、全員が参加しながら実施。 ・ほっぶ活動時間内(平日10：00～16：00)で計画を立てて実施。 ・当日は、計画に沿って実施。 ・翌日以降のプログラムで振り返りを実施し、記録に残す。	成果及び今後の課題	
< グループワーク（行事） > ・スタッフが主体となって企画し計画を立て実施できるようにすること、で、遂行機能を鍛える ・1つの事を皆で成し遂げる経験をさせる ・コミュニケーション能力を身につける。	○年に3回（月・月・月）実施。 ・春(4/12)：仙台市天文台 - 夏(8/2)：仙台市科学館 - 秋(11/22)：八木山動物園 ○流れ、実施内容 ・行事の目的確認をし、内容を話し合い、プレゼンし決定。 ・進行や書記等の各担当を決め、全員が参加しながら実施。 ・ほっぶ活動時間内(平日10：00～16：00)で計画を立てて実施。 ・当日は、計画に沿って実施。 ・翌日以降のプログラムで振り返りを実施し、記録に残す。	・ Plan(計画)→Do(実行)→Check(検証・振り返り)→Action(改善)のサイクルで定期的に行い、次に繋がられるようにした。 ・ 前年よりも内容案が多く出ており、スタッフ間でも情報共有をしている場面があった。自分たちが楽しめるように内容や工夫をして行うことができた。 ・ スタッフ自ら役割を分担・担当。担当ごとの話し合いや、発表の際に休みのスタッフがいた際に引継ぎを行う等、コミュニケーションをとりながら進めていくことができた。ほっぶとあばかばか同のため、あまり話をしていなかった方の方の間でも話す機会が生まれて良かったとの声があった。 ・ 秋の行事から昼休みのみ買い物を可能にした。時間を守り買い物を楽しんでいた様子があった。 ・ 内容や時期によってスタッフの役割が多かったり少なかったり調整しながら皆が楽しく参加することができていた。	及川
< トータルパッケージ > ・各項目を実施し、得意とするもの、苦手とするものの把握をする。 ・結果を参考にトレーニングの指標として活用する	○随時、セルフや始めのミーティングの時間を利用して実施。 ○実施項目 ・OA作業：数値入力・文書入力・検索修正・ファイル整理 ・事務作業：数値チェック・物品請求書作成・作業日報集計 ・実務作業：ピッキング・重さ計測・プラグ・タップ組み立て	・利用開始スタッフと既存のスタッフで、就労に向けての確認等で優先を決めながら対応することは出来ていた。 ・前年度に比べて利用開始時にスタートすることは出来るようになってきている。 ・時間に固執するのではなく、プログラムを見て柔軟に対応することで、計画的に行うことが出来た。	今野
< 企業訪問・講話、実習 > ・様々な企業、職種を知る ・訪問企業の場所と交通手段を調べる ・企業訪問を継続して実施することでスタッフの職業選択の幅を広げる ・企業に障害者雇用に対しての理解を深める	< 企業訪問 > * 随時、個別対応で実施 ・ハローワーク障害者求人や仙台市障害者就労支援センターとの連携による見学を実施 < 職業講話・セミナー > ・オンライン企業説明会参加 < 実習 > ・求人票からの応募前実習への参加 ・宮城県ビジネスアシスタント事業への参加	・ハローワーク求人から応募前の事前見学や実習を個別に実施している ・仙台市障害者就労支援センターやわ〜くからの求人情報をもとに見学会に参加している ・2024年度は卒業生（佐々木学さん）が勤務している「仙台にしむら（マクドナルド）」の人事部長、店長、本人から仕事の話、雇用について講話いただいた。 ・宮城県ビジネスアシスタント事業の後期を受託し4名の方が参加した。 ・他法人（クロスジョブさん）を利用してはいる高次脳機能障害の方の就労実績についてのオンラインセミナーに全員で参加している。	貴洞
< 先輩会 > ・働いている先輩方を招き、仕事に関わることやほっぶの時の話を聞くことで、日々のトレーニングや今後の就労に向けた活動の参考とする。 ・先輩同士のコミュニケーションの場としての提供とする。 ・終了者の状況把握、継続した就労支援の場とする。	○年2回土曜日の午前で実施 * 開催翌週の月曜日は振替休日 ・1回目…5/18・・・22名、10/19・・・14名 ・2回目…6/1・・・21名、11/9・・・28名 ○事前準備として、2～3回、1回1時間程度で実施 ・先輩会の目的、取り組み内容の確認、当日の質問内容を考える ・役割分担：事前→受付名簿作成、名札準備 - 当日→受付、案内、グループ進行、発表 ○当日の先輩会の流れ ・先輩→アンケート記入、お知らせ、写真等の受け取り ○先輩会の振り返りを翌週に実施 ・準備から当日の動き、話の内容について。	・今年度も1回を2ヵ月に分散し実施。対象者は、就労者(一般及びA型事業所)にしている卒業生とし、昼食交流会や就労者以外の卒業生を呼んでの会は計画に至らなかった。 ・準備等に関しては、先輩会シートを活用しながら、自己紹介の記入や役割分担、質問内容等を確認した。 ・グループ分けは、パートナーが決めて提示。 ・各役割の準備はセルフトレーニング等を利用して実施。 - 各自が予定を確認したりしながら声がけをして準備。必要に応じてパートナーも入りながら実施した。 ・当日のトーク記録はグループ担当のパートナーが実施し、スタッフには先輩の話に集中していただいた。 ・実施翌週からは、就職に向けてや他プログラムでも取り上げ、連携を図った。 ・先輩からの話を聞き現スタッフの気持ちや先輩のモチベーションにつながった。 ・今年度は、先輩の人数が多くスタッフの人数が少なかったこともあり、例年の5チームに分けてが難しく、大きく2チームに分けて、実施した。今までとは違う形式での実施であったが、事前に準備が出来たこともあり、混乱なく進めることが出来た。	今野

2024（令和6）年度 就労準備支援センターあぼかぼ 事業報告

1. 利用者の推移と方向性

事業開始して2年目の2024度は3名からスタートしその後6名が利用開始し2名が中途退所となつて3月末現在7名が利用している。3月末で事業開始から利用していた方が2年満了で卒業し4月から就労継続支援B型に通所している。7名全員が毎日の利用ではないので引き続き見学や体験利用を通して利用者獲得をしていきたい。現在、医療機関、相談支援事業所、支援学校などから相談が増えてきている。2025年5月から定員8名に変更。

2. プログラムの取り組み ※別紙参照

毎日実施している、「朝の会」「夕の会」のほかにも利用者数が増えたことで周りの方とコミュニケーションをとりながら行うものも増えてきた。2024年度から「社会生活の自立度評価表（SIM）」を活用し自身で目標の達成度を確認している。また社会経験が少ないスタッフも多いので「SST」を実施し具体的な場面に応じたコミュニケーション方法も一緒に確認している。運動プログラムなど内容によっては就労支援センターほっぷのプログラムに参加し合同で実施しているものもある。

3. ご家族支援

利用開始時や相談支援のモニタリング面談時などご家族とも情報共有する場を作っている。今後の方向性を話す際には一緒に検討していきたい。

4. 各関係機関との連携

利用スタッフは全員、相談支援事業所がかかわっているので見学相談の際から情報共有しモニタリング面談時にも一緒に確認していく。また生活訓練からのステップアップ先やタイミングなども一緒に検討していきたい。

5. 職員研修、スキルアップ

仙台市障害者就労支援センター、宮城県事業（受託者：アデコ）、障害者自立支援協議会主催の連絡会議や研修会には積極的に参加し他の事業所担当者と情報交換している。また2024年度から仙台市内の生活訓練事業所と独自の連絡会議を作り利用者獲得や実施プログラムなど一緒に話し合う機会を作っている。今後も継続していきたい。2024年度は国土交通省の社会復帰促進事業を受託し医療機関とのネットワーク構築や地域連携として各圏域の研修会等にも参加してきた。2025年度も受託し同様の活動を引き続き実施していきたい。

就労準備支援センターあぼかぼ
サービス管理責任者 貫洞 正一

＜プログラム名＞ 目的・目標	実施概要	成果及び今後の課題	担当者 (講師)
【朝の会】 ○一日のスケジュールを確認し、時間管理の意識を促す。 ○自身の体調と生活リズムへの意識を促す。	●毎日10:00～ ○日報記入（体調・気分・予定・今日の目標） ○本日のプログラムの確認 ○体調・今日の目標の確認 ○個別ワーク（制作・読書・脳トレプリント） ○発声練習・挨拶練習・ラジオ体操・プレインジム（※） ※は、ほっぷと合同	●成果 ○体調や気持ちの状態を本人もパートナーも把握することができた。 ○一日の流れや連絡事項等確認できる時間として活用できた。 ●課題 ○個別ワークの活用の仕方の工夫 ○10:30～ほっぷ合同となる時、移動をスムーズに行えるような工夫 ○席を離れる際、机の整理整頓や椅子を引くなどの意識づけ ○個別支援計画に基づいた目標や、体調面を考慮しながら参加するプログラムを選択する時間を設ける（週の始まり等）	岩佐 佐藤
【月の目標決めと前月の振り返り】 ○個別支援計画書を基にした目標への日々の意識を促す。 ○目標達成に向けた行動を促す。	●毎月第一週目 1回/月 ○月初めに、月の目標を決めて目標シートに記入する。 ○目標に向けた取り組み「チャレンジすること」を決め、毎日スタンプを使用して達成を記録する。 ○翌月に取り組みを達成度で振り返る。	●成果 ○毎月目標を決め、日々達成度を確認することで意識づけすることができた。 ○スタンプを使うことで可視化でき、楽しみながら行うことができた。 ○毎月振り返ることで、目標の調整を自分で考えて決めることができた。 ●課題 ○	岩佐 佐藤
【SIM評価チェック】 ○個別支援計画の目標への意識を促す。 ○ご自身の目標達成度と進歩・変化を確認し自己理解につなげる。	●1回/3カ月 ○3カ月毎にSIM評価シート項目に4段階の自己評価を記入する。 ○自己評価をパートナーと振り返り、項目に対する自己意識を確認する。 ○以前の評価と比較しながら、変化と目標の達成度を確認する。	●成果 ○家での生活の様子や、体調・健康面等、項目ごとに詳しく聞き取ることができるツールとして利用できたように思う ○3か月ごとに定期的に行うことで、前回との変化を確認することができた ○振り返りの時間を設け、個別で面談を行うことでより詳しく話を聞くことができた。 ●課題 ○評価項目の内容や、評価方法（4→7段階評価を検討）の見直しを行い、より正確で使いやすい内容に変えていく。 ○加算を取ることも検討する	岩佐 佐藤
【制作タイム】 ○手先を使い脳の活性化を促す ○集中力を養う ○自己表現、創造的な作業を楽しむ	●2回/月 ○ペーパークラフト作成 ○雑誌の切り抜き等のコラージュ ○折り紙、季節の飾り作成 ○パズル、模型 ○絵を描く	●成果 ○楽しみながら集中力を鍛えることができていた ○自己表現できる場となった ●課題 ○何を作ればいいかわからない方の参加方法の検討 ○自由に制作する日とテーマを決めて作成する日など内容の工夫や、選択肢を増やす	岩佐 佐藤
【図書、DVD予約/読書】 ○インターネット上の予約等のやり取りになれる ○自分の興味のある分野の本などを読み知見を広げる ○他者と相談しながら借りるDVDを決め、コミュニケーション能力を養う	●2回/月 ○PCで市民図書館の予約システムを利用し、読みたい本を予約する。 ○借りた本を読む ○DVDはスタッフ間で何を観るか意見を出し合い決定する	●成果 ○図書・DVDのPCからの予約は一人一人慣れて行うことができた。 ○DVDを選ぶ際には、それぞれ希望と意見をあげながら話し合うことができていた。 ○図書の予約を希望しないスタッフもいたが、話し合いに協力して参加することができていた。 ●課題 ○図書予約と読書・DVD鑑賞を希望しないスタッフが参加する際、本や映画のことを話題にすることで全員で話し合う雰囲気を作ることができたが、話し合いが負担にならないような工夫は継続して必要と感じる。場合によっては個別対応も想定しながら実施する。	岩佐 佐藤
【映像鑑賞】 ○借りたDVDを皆で鑑賞し楽しむ ○集中力、協調性を養う	●1回/月 ○あばかばルームでDVDを鑑賞する	●成果 ○話し合いで決まったDVDを全員で楽しく鑑賞することができた。 ○DVD鑑賞を希望せず個別ワークするスタッフあり。ルームのテーブルを使用し、パーテーションを立てて個別の空間にして対応。問題なく過ごしていただけた。 ●課題 ○上映時間90分以上のDVDになることもあり、スタッフによっては体調への負担も生じることが想定される。参加スタッフの様子を見ながら調整するように事前の体調確認を継続する。	岩佐 佐藤

【散歩】 ○体力の向上 ○気分転換を図る ○季節を感じたり、会話を楽しむ	●2回/月 ○図書館まで歩き本の受け取り、返却を行う ○七夕まつりや初詣など、季節のイベント等に参加する	●成果 ○参加スタッフから「話しながらの散歩は楽しかった」「周りの風景を見ながら歩いて楽しかった」「気持ちよかった」「運動になった」「気分転換になった」とポジティブな感想多くあり。 ○図書書の受け取り、アエル・SS30の展望フロア、七夕や青葉まつり前の山車の展示など、外出に工夫できたことで参加スタッフのモチベーションになっている。 ○体調・早退などの事情によって参加できないスタッフは個別ワークやほっぷプログラムの参加で対応できた。 ●課題 ○アエル・SS30の展望フロアの散歩で、頭痛を発症したスタッフあり、反省点。天候・気温・湿度・場所によってスタッフの体調に影響することを考慮した無理のない散歩行程で実施する。	岩佐 佐藤
【運動/ストレッチ】 ○体力の向上 ○筋力アップ、体幹バランスを鍛え体の使い方を理解する ○ストレス発散、リラックス	●1回～2回/月 ユーチューブ動画視聴し以下を実施（状況によってマット・椅子を使用する） ○体幹バランス・筋トレ ○ヨガストレッチや瞑想 ○ラジオ体操の振り付けを確認する ○室内ウォーキング	●成果 ○参加スタッフ全員、動画通りに実行している。動画の手本でわかりやすい運動の内容で実施できた。 ○笑顔で楽しくコミュニケーションをとりながら実施できた。 ○運動を目標にされているスタッフから「運動できた」と感想あり。モチベーションになっている。 ○参加スタッフから「運動した後は体が軽くなった」「気分転換になった」と効果の感想あり。 ●課題 ○スタッフの体調によっては運動の動作に負担が想定される。特にこれまでの実施で問題はなかったが、スタッフの体調に負担のないメニューの検討と実施前の体調確認を継続。	岩佐 佐藤
【脳トレ/ゲーム】 ○認知機能の改善、維持、向上を図る ○コミュニケーション能力を養う	●1回～2回/月 ○トランプ（ババ抜き、七ならべ、ブラックジャック等）やドンジャラ、かるた等を行う ○クイズや、お題あてゲームなど全員で参加できるゲームを行う	●成果 ○ルールを守りつつ楽しみながらコミュニケーションをとることができていた ○スタッフ自らやりたいゲームを提案したり、ルール説明を率先して行う様子も見られた ●課題 ○全員が参加できる内容を心掛けたが、トランプなど少し複雑なルールのゲームだと理解度の差が生じてしまい、「楽しめなかった」との感想も一部見られた。 「これをやりたい」という意見と、難易度のバランスを取りつつ、わからないことや意見を言いやすい環境づくり、声がけを意識する。	岩佐 佐藤
【PCプログラム】 ○PC作業を行い技術の習得、向上を図る	●2回/月 ○WordやExcel等を使用し文章や表を作成する ○ネット上のタイピングゲームでキーボード入力の練習をする	●成果 ○普段あまりPCに触れることがなかったスタッフも、操作の仕方等を学んだり、慣れるいい機会となったようです。 ○取り組んだ内容を記録することでタイピングゲームなどで記録を更新したいというモチベーションをもって取り組んでいる方もいた。 ●課題 ○それぞれ取り組む内容が固定化されてきているため、他にも提案できる内容を増やしていく。 ○人数が増えたことによりPCが足りなくなることが考えられるため、前半後半で交代して使うなど、対応を考える	岩佐 佐藤
【臨床美術】 ○五感を使い、いつもと違うものの方や方法で自分を表現する ○楽しみながら脳を活性化させる	●1回/月 ○外部講師が示す制作の手順で、様々な材料を使用した描画や造形を行う。	●成果 ○各々独自の感覚や色使いで自分を表現していた。 ○何が出来上がるのかわくわくしながら取り組んでいる様子だった	東北福祉大学 地域創生推進センター 仙台元氣塾 古瀬 布美子 氏
【調理】 ○メニュー決め、買い物、調理、片付けの一連の流れを体験し、生活力の向上を目指す ○スタッフ同士で分担しながら作業し協調性を身に着ける	●3回/年 ○スタッフ間で相談しながらメニューや材料、分担を決める ○レシピをPC等でまとめる ○スーパーへ買い物へ行く ○ほっぷのキッチンで協力しながら調理を行う ○調理したものを皆で食べ、振り返りを行う	●成果 ○メニュー決めの相談や、買い物、調理において協力しながら作業している様子がみられた。 ○楽しみながらコミュニケーションをとることができていた。 ●課題 ○毎回エプロンや三角巾の忘れ物がみられた為、周知方法を工夫していく ○箸やスプーンなどはそれぞれ用意してもらうことも検討	岩佐 佐藤

【作業プログラム】 ○軽作業や事務的な作業など、実際の仕事をイメージした訓練を行う ○自身の集中力の持続時間や、得意不得意を知る	●2回/月 ○動画による仕事紹介 ○事務局の作業（切手の仕分け、袋たたみ、封筒づくり等） ○ビーズ仕分け、在庫確認 ○PC入力による在庫表作成	●成果 ○ビーズ仕分け・数数え・在庫確認・PCによる在庫表の作成の実施には「楽しい」「続けてやりたい」とスタッフから感想あり。また作業の苦手にも気づかれて作業を変えながら参加するスタッフあり。 ○事務局から袋置と切手仕分け作業もあり、いろいろな作業体験を提供できた。 ●課題 ○就労希望のスタッフから「仕事のことは知りたいけど、何が何だか何もわからない」と話あり。仕事のイメージにつながるようなプログラムの提供の仕方を検討。	岩佐 佐藤
【コグトレ】 ○運動機能・認知機能の向上を図る。	●1回/月 ○ゲーム形式・作業形式で、運動機能・認知機能に働きかけるメニューを行う。 ○個人ワーク・チームワークを織り交ぜて、楽しいコミュニケーションの時間とする。 ○紐結び、タワー作り（ボトルキャップ・積み木・プラコップ、ボールペン）、豆つかみ、新聞キャッチ、色紙ちぎり等	●成果 ○チーム戦にするなどゲーム性があることで、スタッフが楽しく参加できている。 ○適度な難易度があり、達成感がある。	今野
【ぶちSST】 ○日常生活・社会生活におけるマナー・立ち振る舞い・場面に応じたコミュニケーションについて知る。 ○自身のコミュニケーションスタイルの自己理解を促す。 ○体験練習を通して具体的なコミュニケーションスキル身に着ける。	●2回/月 ○コミュニケーションゲームの活用。 ○日常生活をテーマとしたグループディスカッション。 ○問題解決のグループワーク。 ○コミュニケーションの目的に応じた型をロールプレイで練習する。	●成果 ○対人スキルに課題を感じているスタッフの希望に応じたコミュニケーションのスキル練習になった。 ●課題 ○実際の場面に般化するための練習には至っていない。スタッフそれぞれの目標・ペースに合わせた場面の提示方法と練習方法を検討。 ○コミュニケーションのスキルの差・理解の差がある中で違いを生かしたグループワークの方法を検討。 ○ほっぷSSTと連動した内容を検討。	岩佐
【社会生活力】 ○社会生活に必要なスキルを身に着ける ○自己理解を深める	●2回/月 ○自己紹介シートやいいところ探し、特性チェックシートを利用し自分を知る ○自分の障害を理解し他者への発信の仕方を考える ○自分の強みや苦しいこと、配慮してほしいことを文章としてまとめる ○履歴書記入練習や面接練習（挨拶の姿勢、入退室、質疑応答）を通し、自分に合った社会参加について考えたり、社会的スキルを身に着ける	●成果 ○じっくり時間をかけてとりくむことで、自己理解を深める一助となった様子 ○履歴書や面接など、仕事や社会参加に具体的なイメージしやすい内容とからめつつ、自分の特性を伝える練習となった。 ●課題 ○就職経験がない方や、やってみたい仕事はまだ定まっていなかった方には少しイメージしづらいところもあった ○就職を目指している方、目指していない方、社会経験の有無など様々な状況の方にもなるべく合う内容にしていきたい。 ○作業プログラムと連動した内容も検討	佐藤
【個別ワーク】 ○個人の目標に基づき伸ばしたい分野や身に着けたいことに取り組む	●1回～2回（朝夕15分：毎日） ○個別で取り組む内容を決めて進めていく	●成果 ○各々取り組みたいことや目標に基づいた、自由度の高い時間として活用できていた。 ●課題 ○個別の時間にやりたいことを自ら見つけられる方もいた一方、何をすればいいかわからない方もいた為、個別支援計画に基づきながら一緒に考え提案できる体制を整える。 ○必要に応じ、取り組みたいことの具体性（何をどのくらい、いつまで等）をより明確にし計画的に活用できるよう工夫していく	岩佐 佐藤
【生活力アップ】 ○生活する上で必要なスキルを身に着ける	●最終週1回/月 ○ヨガマットの拭き掃除、椅子の拭き掃除 ○日報ファイルのプリント整理 ○あばかばルームの整理整頓	●成果 ○掃除や整理整頓など、生活に直結する内容を体験することで、スキルアップにつながった。 ○周りとの協力して取り組むことでコミュニケーションもうまれた。 ●課題 ○人数が増えたこともあり、作業が早く終わってしまうことが多かったため今後やることの項目を増やしていけるよう検討。 ○毎月ルーティン化して取り組んでいることは、パートナーの声がけがなくてもスタッフが率先してできるようにしていきたい	岩佐 佐藤

【夕の会】 ○1日のプログラムを終えて体調の変化を把握する ○プログラム後の感じたことに意識を向け、振り返りをする ○今月の目標で決めたチャレンジチェックの達成度を振り返る	●毎日 ○日報記入（体調、プログラム感想、今日のいちほめ） ○今月の目標のチャレンジチェックシートに達成度のハンコを押す ○明日のスケジュール確認	●成果 ○一日を振り返っての感想や体調の変化に目を向ける時間として活用できていた ○チャレンジチェックシートを活用し、日々の達成度をはかることで自分で決めた目標の意識づけにもつながった。 ●課題 ○時間になっても雑談に集中してしまったり、優先順位がうまくつけられず日報の記録が全員終わるまで時間がかかってしまうことが多々あった。メリハリを意識して声がけを継続していく。	岩佐 佐藤
【掃除】 ○環境を整え、気持ちよく過ごすための整理整頓の意識を養う ○自分の役割を責任をもって執り行う力を身に着ける	●月、火、木、金 夕の会后 ○モップ、モップサポート、テーブル拭き、ほこり払い、ホワイトボードの役割をローテーションし各自が掃除をする ○掃除が終わったらパートナーに報告をする	●成果 ○掃除当番表を確認しながら、担当の掃除を行うことができていた。 ○掃除後にスタッフ自ら次回の掃除担当の変更を行っている。 ●課題 ○掃除終了の報告が忘れがちなスタッフへの促しが継続している。新規利用のスタッフにも活用できる掃除の流れ手順書の用意を検討。	岩佐 佐藤
【ほっぷ合同プログラム】 ○普段かかわりの少ないスタッフとの交流を通して、新たなコミュニケーションの体験の場とする。	○季節の行事 ○スポーツコミュニケーション ○フロアホッケー ○グルーptーク ○栄養管理講座 ○ITサポート講習 ○コミュニケーション術 ○リズム体操	●成果 ○ほっぷスタッフとの交流時間となり、コミュニケーションによって親睦を深めている。相互に声を掛け合うなど関わりが増えていた。 ○あばかばには無い就職を前提にした話題もあり、ほっぷのプログラムに興味を持ったり、参加したりするスタッフがいる。	

2024（令和 6）年度 就労定着支援センターほっぷの実 事業報告

1. 実績状況

①利用者の推移

今年度は、年間延べ 171 名の就労定着支援を実施。ひと月当たりの平均利用者数は 14.25 名。（月の利用者数及び給付費に関しては別紙のとおり）

今年度の利用者は、olive からの就労者 1 名で他は就労支援センターほっぷ（以下「ほっぷ」）の就労者となっている。新規利用開始者は 7 名。

就労定着支援利用終了者 4 名。内訳、3 年間の支援期間満了者 2 名、離職による終了者 1 名。雇用契約更新に至らず雇用の終了者 1 名。

②職員の体制

昨年度は体制の変更はあったが、今年度は変更なく引き続きほっぷとの兼務で就労定着支援員 2 名体制で実施。

令和 5 年度までは、就労移行支援と就労定着支援の兼務者は按分した時間数での勤務時間数の計算であったため就労定着支援員数を増やしていくことが難しかった。令和 6 年度の報酬改定で、兼務した勤務時間を含めて 8 時間とすることが出来るようになった。今年度は同じ支援員 2 名体制でおこなったが、今後はほっぷの職員が就労準備から採用場面、フォローアップ（就労定着）と一連の流れに関われるように準備を進め、3 名体制としていくこととした。

2. 就労定着支援の実施状況

①支援への取り組み

雇用先への訪問は毎月 1 回以上実施。その方の状況に応じながらご本人との面談や就労先の方からの聞き取り、必要に応じてご家族や相談支援事業所と情報共有をしながら安定した就労の継続への支援を実施した。また、ご本人の症状の理解を深めて頂くために通院同行も行い、雇用先の方の障害理解を図った。その他、勤務終了後にほっぷに立ち寄っていただいたり、土曜日や日曜日に行っているフリープログラムに参加していただき面談を実施する等、働いている方の状況や必要に応じて支援を実施した。また、何かあればメールや電話でのやりとりができるような関係性も心がけた。

雇用の継続とならず 2 名の方が離職となったが、ご本人の特性への対応と作業内容の調整や切り出し方等、就労当初の確認や面談を通しての改善を考えさせられるケースであった。

半面、就労している方が支援に入ることによって安定した雇用につながっていることで二人目の雇用の検討や求人の相談もしていただける関係作りもできた。

②新規利用に関して

新規利用開始者が7名。昨年度は利用開始まで面談や手続きの調整で予定月に始められなかった方がいたため、今年度は相談支援事業所とも連携を取りながら、期間を開けずに開始できるようにした。そのために、利用開始までの半年間のフォローアップが大事になる為、就労開始時に就労定着支援に関しての説明と継続した就労に向けての取り組みを確認するようにした。

③就労定着支援利用終了者に関して

終了者4名。(支援期間満了2名、離職による終了1名。雇用契約更新終了1名)

3年間の就労定着支援期間終了者2名は共に就労の継続にあたって安定しているが、雇用先の担当者と想定される課題や対応等を確認。基本的にはほっぷの終了者として今後先輩会等でフォローしていくこととしたが、必要に応じて、これまでも関わりのあるはたらポート仙台やウエルポート仙台、宮城障害者職業センターに相談をし、繋いでいける体制とした。離職となった1名は相談支援事業所に関わっていただき、ご本人の状況を確認していただきながら新たな活動先に繋いでいただいた。雇用契約更新終了1名は、ご本人の希望もあり、再度就労へのトレーニングの希望があり、ほっぷに繋がった。

3. 他機関との連携

支援時や終了後の関わり先として、個々の必要性（ニーズ）を見極め、これまでの関りから、ウエルポート仙台や宮城障害者職業センターと連携をしながら支援の継続を実施。相談支援事業所とは連携が不可欠でもあるため、随時情報共有を図りながら支援を実施した。

4. 会議、研修

①所内会議

利用者がほっぷ卒業生が主なのと、仕事帰りに立ち寄ることも多いこともあり、週1回のほっぷの会議の中で、必要に応じて支援状況の情報共有や検討を実施。

定着支援としては、月に1回会議にて支援状況（課題、計画、取り組み等）の確認を実施。

②外部研修・講座

障害者雇用促進セミナー（企業向け講習会）にて、就労定着支援に関する取り組みを発表。

就労定着支援センターほっぷの実

管理者 平山 昭江

別紙

月	利用者（人）	給付費（円）
4	11	320,136
5	12	359,379
6	13	408,817
7	13	385,973
8	15	455,135
9	15	445,811
10	16	481,465
11	16	473,073
12	15	446,418
1	15	446,418
2	15	433,830
3	15	433,830
計	171	5,090,285
平均	14.25	424,190

2024（令和6）年度 TFU Cafeteria Olive 事業報告

2024年度、就労継続支援A型のスコア表の基準が大きく変わり、就労支援事業（レストラン事業）でマイナスが続いている事業所は給付費単価が下がり収入が大きく減少した。コロナ後大学の休業が続き営業ができずレストラン収入が無いオリーブにおいても例外なく給付費単価が下がり年間1,000万程の減収となった。

レストラン（就労支援）事業の黒字化。A型事業所として国から求められている様々な取り組みへの対応（スコア表での評価）。適正価格での販売。システムの効率化など意識しながら取り組んだ1年となった。

夜の売上が運営に大きく左右することからTFU Cafeteria Oliveでは音楽企画「ムジカデオリーブ」（ミュージックでオリーブ）をスタート。金曜日の夜はミュージックチャージ1,000円程で気軽に音楽と食事を楽しめる日とし、平日夜の段階的な仕組み作りをスタートさせた。音楽での新たな仕組み作りに賛同し広告費用の協賛もあり、情報誌りらくへの広告掲載3回、記事としての掲載1回、インフルエンサー（仙台通信）を活用した告知にも取り組み、新しい事業の安定と集客増に取り組んだ。又新聞への掲載、テレビでの取材などパブリシティでの露出も多い一年となった。

貸切件数は196件（昨年107件）と大きく増え、特に東北福祉大学関係者の利用が増えた。割引得点付きチラシを作成し配布（東北福祉大学教員メールボックスへの投函、関連団体＜病院や老人ホーム、幼稚園、保育園施＞等）。野球部、空手部、スキー部などの新入生歓迎会、OB会、退職の先生のお祝い会、学会・研究会後の懇親会等での利用があった。大学のレストラン（学食）として周知されてきていると感じる。今後も魅力ある商品を提供し、喜んでいただけるレストランを目指していきたい。

びすた〜り榴ヶ岡においては、前年と比べ6%程の売上増となった。販売価格の見直しを行い原価率も38%まで下がってきている。2025年度更に見直しを進めていきたい。お客様からの料理の評価も高く、毎日の様に来店される方もおり飽きさせないラインナップなどリピーターに繋がっている。ランチタイムはほぼ満席となっており、お弁当の予約やティータイムや夜の利用など今後力を入れていきたい。

TFU Cafeteria Olive

管理者 菊田俊彦

1. 収入

店舗売上 TFU Cafeteria Olive 2024 年度 38,379,051 円 前年比 170%
(2023 年度 22,588,086 円)

びすた〜り榴ヶ岡 2024 年度 15,267,760 円 前年比 106%
(2023 年度 14,402,620 円)

給付費収入 2024 年度 22,756,405 円 前年比 70%
(2023 年度 32,388,717 円)

2. 貸切イベントについて

TFU Cafeteria Olive 貸切イベント 196 件。ムジカデオリバでの取り組みもありこれまでで一番の貸切件数となった。コンサートや発表会などの利用に加え、東北福祉大学関係者の方の利用が増え歓迎会、送別会、退職の先生のお祝い会、学会後の懇親会、野球部、空手部、スキー部などの歓迎会や OB 会等、大学のレストランとして周知されてきている。

びすた〜り榴ヶ岡貸切イベント 23 件。ティータイム 5 件（コンサート利用 4 件、セミナー 1 件）ディナー食事 18 件。ピアノ演奏を入れてのクリスマスをお 8,000 円で実施。4 組 12 名のお客様に利用いただいた。

3. 料理について

①オリーブ

予約でのお弁当作り、ランチ提供、デザート作り、コース料理など、提供の形式やタイミング、人数の変更、お客様の要望等伺いながら食事の提供を行った。

教室を使用した 200 名の食事提供や、教室とレストランの同時提供など、沢山のお客様に喜んでいただいた。朝のスタンバイ、ランチ提供、仕込み、デザート作り、夜のディナー提供とシェフの労働時間が長くなってしまった。今後パートの方を雇用し働き方を改善していきたい。

②びすた〜り

料理の評価が高く、メニューのラインナップの変化もあり毎日利用の方も数名見られる。お弁当予約も繰り返しでの注文もありお客様に喜んでいただいている。

ランチタイム中心の営業の為、原価率が高い傾向にあるが、昨年に比べて 10%程抑えることができた。お客様の満足度を下げずに原価率を抑えていくか検討と実践が求められ

る。お弁当予約やティータイム、ディナー予約など今後更に利用を増やしていきたい。

4. 販売価格の見直しについて

資材、原材料の高騰に伴いランチ、コース料理、飲物単品、飲放題価格販売等価格の見直しを行った。又、ご飯の大盛り無料としていたが大盛り 50 円プラスとした。

5. システムの効率化について

iPad を活用したオーダーシステム活用により、効率的なオペレーションが可能となった。食事提供数の把握、月の配食数、時間帯でのお客様数の変化、曜日での変化、売上の把握等タイムリーに把握が可能となった。様々なタッチ決済の導入。ホットペッパーからの iPad アプリへの予約申し込み。様々な機能を更に活用し効率化を図っていきたい。

6. スコア表 UP への取り組み

昨年までクリアできていなかった人事評価制度の仕組み作り、研修や研究会等での発表、利用者の知識・能力向上への取り組み、2024 年度実施。2025 年度のスコア表評価 UP に繋げることができた。2025 年度も計画的に実施していきたい。

スタッフの活動について

コロナによる休業明け 2 年目となった 2024 年。お客様を増やし、さらなる売上アップの目標を掲げ、以前のように日々忙しいレストランの仕事に戻ったスタッフ達。

ランチタイムは付近のサラリーマンの方々が通う店となり、月に 10 件程度は貸切の宴会やコンサートが続くことも当たり前になった。金曜の夜営業「ムジカ・デ・オリバ」も本格的に動き出し夜にも賑わいが戻ってきた。時には福祉大での展示等により客数が 1 日 150 名を超える日もあったが、スタッフ達は余裕こそないものの目の前のことに集中し最後まで食らいついた 1 年だったと思う。また、引き続き Olive とびすた〜り榴ヶ岡を行き来し、規模や特徴の違う 2 つの店の違いを楽しみながら働くスタッフも 10 名となった。

その中で力を付けたスタッフも多い。新しいオーダーシステムや数多い支払い方法に対応できるレジの操作を覚えた方、より綺麗な盛付けに励んだ方、イレギュラーな動きも多い夜営業に欠かせない存在となった方、また Olive の顔でもある自家焙煎珈琲を探究し続ける方もいた。忙しくなればなる程ひとつのチームとして互いを思やり、気持ちのよい声掛けや受け答えが必要不可欠となるが、時折上手く行かない場面もあり相手がどう感じるのか、どういう対応が良かったのかを一緒に振り返ることもあった。

また、2024 年度はスタッフの退職も多かった。調理場スタッフ 3 名が退職(A 型事業所・B 型事業所へ移行、一般就労)と調理場スタッフのみ 3 名減となった。

久々に一般就労者が出る事で他のスタッフも刺激を受け、その後目標が外へ向うスタッフも出て来ている。またそれとは逆に長町時代から在籍するスタッフも高齢化してきており、仕事に対しての考え方が少しずつ変化したり、気持ちの不安定さが目立つ方も出て来た。

長く働き続けることの難しさや、それに寄り添う支援の在り方を考えさせられる 1 年でもあった。

また、スタッフを支えるパートナーは福祉経験がまだ 1 年程度の方が 9 名中 4 名で、スタッフと活動を共にしながら日々が学びとなっている。時にはスタッフとのやり取りで誤解を生じさせてしまう事があったり、忙しい営業の中で言葉選びが難しくなってしまう場面もあった。パートナー全員でスタッフとの関わり方を再度確認することもあり、次年度はより学びが必要な 1 年と感じた。忙しくなる店の営業と福祉的な支援の両立は難しいところではあるが、上手に分担したり研修など学びの機会を増やししながら、今後の伸びしろを信じ前進していきたい。

サービス管理責任者

安斎 純子

【1 年間の動き】

<4 月> びすた〜りでは榴ヶ岡公園のお花見シーズンとなり、かなりの忙しさとなった。近隣の学校や幼稚園などからのお弁当の予約もかなり増え、力をつけたスタッフ達が前日の準備などにも携わっている。昨年度からより通勤しやすい場所での就労を考えていた調理場スタッフ 1 名が退職。毎週金曜夜の「ムジカ・デ・オリバ」がスタート。ミヤギテレビ「Oh バンデス」生中継での取材有り。

<5 月> 福祉大ギャラリーミニモリで河北美術展が開催。今年から GW にあわせての開催となり、普段の 3 倍となる 1 日 150 名の来店があった。

調理場スタッフ 1 名が退職。名取市のハウスで薬物栽培をしている企業へ就職し、久々の一般就労者がでた。長年勤務していた調理場パートナーが退職。

今後夜営業が増えてくることが見込まれる為、週 3 日(8H)勤務の調理場アルバイトを 1 名採用している。

<6 月> 原材料高騰により 1~2 割程度、販売価格の値上げを実施。学食や弁当を利用してある福祉大の職員や学生に対しては早めに告知し、ご理解いただきながら価格の改定を行った。コロナ陽性のスタッフが 3 名出た。日頃の感染対策について改めてスタッフと確認している。新しい調理場パートナー(正社員)1 名を採用。夜営業も

多くなりシェフ 2 名体制となった。

<7 月> Olive はランチの客数や貸切の件数も増え、売上が 367 万円と売上が伸びた。びすた〜りでは予約制の通常のディナーコース料理に加えリクエストコース料理 ¥6,000 をスタートさせた。シェフの指導の下、スタッフも仕込みや盛付けに携わり技術を磨いている。

<8 月> 今まででは料理とセットでの貸切予約を受けていたが、料理無し（ドリンク、会場代のみ）のコンサート予約を受けることを可能とした。金額的には大きくないが料理が無い分、調理場パートナーの動きに負担がないという利点もあり。
びすた〜りはシェフが 1 人体制で公休を入れるのが難しい為、3 日間お盆休みの休業日を設けた。

<9 月> びすた〜りでは日替わりランチを ¥850→¥950 セレクトランチ ¥2,300→¥2,500 とし、デザート盛合せ等も一部価格の値上げを行った。びすた〜りに 仙台放送「あらあらかしこ」取材あり。

<10 月> 調理師免許取得の為試験を受けたスタッフ 1 名あり。福祉大から Olive へ実学臨床教育の実習の依頼があり大学 3 年生 1 名を受け入れた。講義だけでは得られない実践の学びを得るプログラムで、週 1 回スタッフと一緒に数時間活動している。

<11 月> 5 月に採用した調理場パートナー(アルバイト)が体調不良の為退職。福祉大共生まちづくり学科の学生からのインタビューを受けたり、コンサートで照明を担当するけやきクラブ学生が入ったりと、国見キャンパスの学生との接点も出ている。

<12 月> Olive では早々に中旬以降の夜貸切予約が前日埋まってしまう状況。大学館内の教室と Olive 店舗の同時 2 件の貸切を行う等、今までにない忙しさとなり売上が初の 500 万越えとなった。シフト的にも誰も欠けることが出来ない状況ではあったが、なんとか全員の力で乗り切った繁忙期だった。

<2 月> 長町時代から 17 年間勤務していた調理場スタッフ 1 名が退職。体力的精神的にも A 型での仕事が難しくなり B 型事業所へ移ることになった。スタッフが 13 名となる。A 型の給付費算定にも関わる「利用者の知識・能力向上に係る取り組み」としてスタッフに向けた職員研修を行った。ほっぷの森でお世話になっている社会保険労務士の先生をお招きし労働契約、社会保険、給与明細の見方等についてご講話いただいた。難しい内容ではあったが、普段あまり分かっていなかった事を知りとても良い学びとなった。びすた〜りではパートナーの有休消化が進まず 2 月に 3 日間、3 月に 4 日間と休業日を設けた。

<3月>びすた〜りではお弁当の予約が多かった。学校関係、市民センターやイベント会場等、DMにより開拓された顧客のリピートも多い。

夜営業・夜貸切も増えホールパートナー(パート)の1名を採用。ホテル等で勤務されているダブルワークの方ではあるが、忙しい際の助っ人として働いていただくことになった。

【スタッフの動き】(R7.3月時点で調理場5名・ホール8名 計13名)

①一般就労等に向けての取り組み 2名

- ・名取市でベビーリーフ等のハウス栽培をしている「はーとふる農園名取」での実習を行い、日建リース工業(株)所有のハウスでの採用が決まり5月に退職。6ヶ月間定期的なフォローアップを行った。その後の支援は相談支援事業所ほっぷの木へ引き継ぎしている。
- ・調理師免許をもち主にびすた〜り榴ヶ岡で活躍していたスタッフ。力を付ける為自分でメニューを考え、仕入れ、仕込み、調理、盛付けまで行う工程も学んでいたが、今後外で今しか出来ない経験を積みたいという強い意志があり、福祉的要素のない一般求人を探している。今現在まだ行先は決まっていないが、本人の希望により早くからR7年5月末で仕事を終えたいと申し出があった。求人の選び方、応募書類作成等のサポートを行っている。(有休消化によりR7.7月退職予定)

②他の事業所への移行 2名

- ・在宅での活動中も一般就労に向けての取り組みを続けていたスタッフではあったが、60歳となり今後の働き方について再度見直しを行った。体力面や通勤面から自宅から近いA型事業所への移行の希望があり見学や実習を行っていたが4月に退職し移行。結果的にその後の継続が難しくなり、現在就労支援センターほっぷを利用中。
- ・長町びすた〜り時代から17年間勤務していたスタッフ。加齢とともに体力的にも疲れやすくなり、仕事への意欲や集中力も落ちて休みがちになってしまう。GH、相談支援事業所ほっぷの木とも連携を取りながら状況をみていたが、有休がなくなった時点でご本人とご親戚の方の意向も確認し、GH近くでレタスの水耕栽培をしているB型事業所へ移行することとなった。

【パートナーの動き】(R7.3月時点で10名)

昨年度から入替えの多い1年となっている。5月に長年勤務していた調理場パートナー1名が退職。週3日8H勤務の調理場アルバイトを1名採用(体調不良により11月退職)

6月に調理場パートナー1名採用(正社員) 昼間のランチをまわせる調理場パート1名の募集を

ずっとかけているが未だ採用には至っていない。

【パートナー研修】

計画に基づき5名が研修に参加した。営業の傍ら対面での研修は難しく、オンデマンド配信等での研修となったが、昨年同様パート職員も時間を作り学ぶことが出来た。

- ・これからの人口減少におけるA型の役割（リモート参加）1名
- ・高次脳機能障害基礎講座(オンデマンド配信) 1名
- ・高齢化する知的障がいのある人の退行性変化について（オンライン）2名
- ・高次脳機能障害リハビリテーション講習会（動画配信） 1名
- ・アーチル発達障害基礎講座（動画配信動画配信） 1名
- ・知っておきたいてんかん対策（オンライン） 1名

【健康診断の実施】

2025年2月実施。今年度受診先が変わり、よりOliveに近く便利になった。初めての健診センターということでスタッフ達はかなり緊張していたが、いくつかのグループに分けサポートが必要なスタッフは全てパートナーと一緒に日程で同行した。

今年度、既に通院中の方以外は健康指導が入るスタッフはいなかった。お店も忙しくなり動量増えているせいか、少し高めだったBMIが低くなっているスタッフも増えている。

【避難訓練の実施】

7月実施（みやぎNPOプラザ、東北福祉大学と合同）

福祉大の避難訓練では、昨年に続きスタッフ1名も参加。大学館内の消火設備等についての知識も得ることができ、接客業としての避難訓練の大切さを実感していた。

2024年度 TFU Cafeteria Olive 貸切イベント件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
貸切件数	9	9	13	21	16	20	15	14	28	16	13	22	196

ティーパーティー（懇親会）	
件数	人数
5	160

ディナーパーティー（懇親会）	
件数	人数
54	1525

ティーコンサート・発表会	
件数	人数
51	1723

ディナーパーティー（東北福祉大学関係）	
件数	人数
24	967

ティータイム合計	
件数	人数
56	1883

ディナーコンサート・発表会	
件数	人数
33	1135

ムジカデオリバ	
件数	人数
29	555

ディナータイム合計	
件数	人数
140	4182

2024（令和6）年度　びすた〜り榴ヶ岡　お弁当予約

商　品	月	4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		合　計		
	単価	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	件数	個数	売上金額
お弁当（1,000円）	1,000	9	160	7	117	3	69	8	135	4	45	6	112	5	83	10	155	11	119	7	138	4	37	11	176	85	1,346	1,346,000
お弁当（1,500円）	1,500	2	13	1	10	2	41					2	56	5	121	3	75	4	56	3	39	1	18	7	147	30	576	864,000
お弁当（2,000円）	2,000							1	5			1	12					2	74		7	1	7	1	16	6	121	242,000
お弁当（2,500円）	2,500																	1	4							1	4	10,000
合　計		11	173	8	127	5	110	9	140	4	45	9	180	10	204	13	230	18	253	10	184	6	62	19	339	122	2,047	2,462,000

2024（令和6）年度　びすた〜り榴ヶ岡　貸切営業

商　品	月	4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		合　計		
	単価	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	売上金額
貸切　ティー（懇親会）	1,300																					1	20			1	20	26,000
貸切　ティー（音楽）	1,300	1	11									1	24					1	15					1	20	4	70	91,000
貸切　ディナー（会食）	2500	1	11			1	17							1	20	1	17									4	65	162,500
貸切　ディナー（会食）	3000											1	32			1	20			1	17					3	69	207,000
貸切　ディナー（会食）	3500					1	7			1	10	1	13													3	30	105,000
貸切　ディナー（会食）	3800							1	7																	1	7	26,600
貸切　ディナー（会食）	4000							1	13					1	11					1	6					3	30	120,000
クリスマスディナー	8000																	4	12							4	12	96,000
貸切　ディナー（音楽）																										0	0	0
合　計		2	22	0	0	2	24	2	20	1	10	3	69	2	31	2	37	5	27	2	23	1	20	1	20	23	303	834,100

2024（令和6） びすた〜りフードマーケット事業報告

2024年度前年度から継続の23名（内1名在宅勤務）でスタート。途中1月より JhoJho に1名入所し年度末には総勢24名となった。

パートナーの育児休業期間や、パートナーが退職（1月）し、新しいパートナーが決まるまでの間は、職員側の連携協力体制を密にしながら過ごした。そんな中、偶然にもボランティアとして JhoJho の助っ人となっていていただける方がおり、スタッフさんたちの力にも助けられ乗り切ることができた。

いろいろな感染症等もやっと落ち着き、日常の生活に戻ってきて、それぞれの生活も楽しめるようになってきた様子も伺うことができた。

支援学校卒業し入所から長く在籍しているスタッフが30歳を超えてきて、GHに生活に移す方など、変化のある1年だった。新しい生活をそれぞれ楽しむこともでき、生活リズムも整い、安定して過ごすことができていた。それに伴い、2月より希望スタッフに JhoJho のメニューを利用した昼食の提供を始めた。（加算対象外）

それぞれ変わった環境の中、GH、相談支援事業所など関係機関と連携しながら安心して過ごせるように努めた。

仕事面では、それぞれの仕事の向き合い方、出勤の仕方など多様になり。それぞれに合った仕事の仕方を探ったり、関係機関との連携を密にした。一般就労へのステップアップを希望するスタッフが、実習にチャレンジをすることもできた。今回はうまくいかなかったが、今後もチャレンジしたい気持ちをもっているため、その方にあった就労先を模索していきたい。（就労Bと併用しながら、一般へつなぐ形を希望）

持病などで長期間（1か月から3か月）休みのスタッフも数名いましたが、暑さ、寒さにも負けずに、スタッフ、ご家族、GHに支えていただき、1年健康で過ごせた方（自分で決めた日数、出勤することができていた）がたくさんおり、これからもご自身で体調管理をする力をつけながら、仕事が続けらるようサポートしていきたい。

びすた〜りフードマーケット
サービス管理責任者 伊藤敬子

【2024年度スタッフ在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均出勤人数
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
在籍合計	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	24	
平均利用人数（日）	20	20	20	19	19	19	20	21	21	21	21	21	20
退所内訳													

【2024年度3月末現在年齢別在籍数】

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	0	4	4	2	1	1	1	13
女性	0	4	2	2	1	1	1	11
合計	0	8	6	3	2	2	2	24

（2025年3月現在）

	野菜 (店舗、Jho)	たけのこ	筍ご飯の 素	惣菜 (店舗、Jho)	デザート (店舗、Jho)	ジャムなど (店舗、Jho)	漬物 (店舗、Jho)	オードブル他 特別注品	びすた〜 り、olive 惣菜
2017年度	¥469,584	¥65,290							
2018年度	¥446,765	¥235,580	¥21,200						
2019年度	¥373,061	¥171,540	¥30,400						
2020年度	¥266,410	¥156,090	¥48,050	¥278,630	¥140,600	¥37,600	¥104,410	¥89,000	
2021年度	¥361,263	¥133,090	¥52,330	¥214,110	¥185,400	¥31,750	¥57,450	¥70,200	
2022年度	¥256,822	¥241,340	¥41,050	¥267,173	¥251,550	¥25,500	¥74,430	¥12,000	
2023年度	¥343,090	¥185,600	¥24,450	¥123,340	¥307,200	¥34,300	¥81,380	¥28,700	¥621,180
2024年度	¥400,440	¥261,350	¥33,000	¥176,880	¥259,300	¥24,600	¥77,510	¥39,000	¥549,650
備考	柳生に畑を 集約した。	表年		筍ご飯、冷凍総 菜を含む	パンナコッタ チーズケーキ カタラーナ	ジャム、ソ ース、ドレ ッシング、 梅ジュース	ラッキョウ 漬の売り上 げが良かった。	お弁 当等	牛スジ カレー ハンバ ーグ等

各現場の報告

1. 畑作業

猛暑の日も熱中症対策を行いながら、体調を崩すスタッフも出ることなく力を合わせて作業することができた。施設外就労の MITU さんは継続して、毎週火曜日(天候等により木曜日に変更あり)に実施している。

これまで柳生(メイン畑)、ハウス、河原、竹林の、4 か所の畑を貸していただきながら作付けを行ってきたが、ハウス、河原の畑においてはなかなか手が回らない現状が続いていた。返却に向けて整備を進め、令和6年7月にハウス、河原畑の返却を完了した。以後は柳生の畑に集約して、連作障害に注意しながら栽培を行っていく。

① 栽培

販売用、調理用で使える葉物、人参、大根、玉ねぎ、じゃがいもなどの一般的な野菜を中心に栽培した。玉ねぎの需要が多く、昨年度の3倍ほどの作付けを行った。

② 収穫

玉ねぎやじゃがいも、葉物などの定番野菜の収穫量は安定している。販売用と調理用のバランスを取りつつ、各部門で連携を図りながら収穫した。

人参や大根などは土中保存し、無駄のないように使用することができてた。さつまいもやヤーコンは保存期間が重要なため、熟成している間に食害や温度管理が難しく、腐らせてしまう物もあった。(以前から保管場所の課題があり、ビニールハウス保管をしてみたが効果は変わらず)

③ ハウス、河原畑の返却

河原の畑においては竹の根の浸食があり、皆で竹の根を引き抜く作業を行った。仮設トイレや物置、解体したハウスの鉄パイプなどの大型の物は業者に運搬を依頼し、草刈りをして最終確認後に地主さんへ返却した。

④ 支援学校実習の受け入れ

久しぶりに畑希望の2年生の生徒さんの実習を行った。

2. 店舗

コンセプト

びすた〜リファームで収穫した農薬化学肥料不使用のおいしい野菜を提供、販売。

近隣の農家さんから仕入れた野菜の販売を行う。

① 野菜の販売

収穫した野菜を調理用と販売に選別、バックヤード調理場と連携し B 品は調理で利用した。Olive、びすた〜りに野菜の納品を週 1 回、ほっぷパートナー野菜の注文配達毎週水曜日行った。

大根、ニンジン、レタス、菊芋、ニラなどお客様にも喜んでいただけた。

② 店舗担当スタッフ

引き続き 2 名のスタッフが定着している。食品入荷の際の検品作業、販売票の記入。

仕入れ業者様の納品書の整理作業も店舗の仕事として定着し、パートナーの仕事の補助となった。

③ 外販、移動販売

休業中のパートナーの対応もあり、木曜日の引き売りは車で回ることに対応した。売り上げとしては減となったが、固定のお客様がいたため、引き売り休みの形をとらずに対応したのはよかった。

久しぶりに、広瀬川灯籠流しの際店前での販売を短時間集中型で行った。

④ 仕入、オリジナル商品の販売

・フードマーケット冷凍総菜・ジャム・漬物、焼き芋、梅ジュース、干し柿、干し柿チップなどを製造販売した。

オーサワ商品

・毎月発注し。固定客の方には事前に連絡をして注文を聞くようにした、近くの方には配達を行った。(車)

戸叶農園さん

・昨年度から継続して、直接受け取りに行く形となり、色麻町のため、なるべく売れ筋の物やお米、豆などを仕入れた。

赤路農園さん

・畑を手伝いつつ、仕入れさせていただいていたが、8 月に勝利先生がお亡くなり

になり、その後の畑を引き続き手入れをしながら、野菜づくりを続けている。(週末対応)

・先生につないでいただいた縁で柿の収穫もでき、たくさんの柿を仕入れることができた。

※赤路農園さんと戸叶さんはなるべく同じ日に対応できるようにした。

小林農園

・体調不良により、仕入れ野菜はなかった。

山路農園（主に慣行栽培、レタスなど農薬不使用や減農薬のものもある）

- ・夏場に慣行栽培ではあるがきゅうり、オクラ、ナスを定期的に仕入販売は定着した。
- ・規格外の玉ねぎを知り合いの農家さんにも声をかけていただき、大量に仕入、調理用として利用した。安価でびすた〜りや olive へも卸すことができた。

⑤ 季節の商品

- ・筍（表年）、梅、ラッキョウ、柿（干し柿、チップ）など、季節の野菜を売っている場所として時期に来店されるお客様が定着した。筍は大量に収穫でき、生の筍でたくさん買っていた。水煮にしての販売も処理する量が多く大変だった。筍ご飯の素もたくさん製造したが、早めに売り切れてしまった。
ゴールデンウィークに、びすた〜り、olive にも協力していただき、店内で販売していた。
- ・梅は不作だったこともあり、柳生だけでは足りず、赤路農園お知り合いより仕入れた、梅漬け、梅ジャム、梅ジュースの加工し販売したり JhoJho のメニューに入れて提供した。梅漬けも製造。
- ・柿は、柳生、赤路農園お知り合いに収穫させていただき、干し柿用として販売したり、好評だった干し柿チップも作った。
- ・セリは、気候も安定していたため、継続し仕入れることができ、販売を行った。（途切れる期間が全くなかった。）

3. フードマーケット調理場

① JhoJho の料理、惣菜作成について

- ・フードマーケットの野菜を使いメイン料理に野菜を添えながら工夫した。季節で変わる、温麺も人気があり筍を使った担々温麺（冷、温対応）、アサリと春野菜温麺（みそ仕立て）などなど作った。たけのこご飯の素も製造販売した。

2 月からフードマーケットスタッフに提供する昼食として JhoJho のメニューを使用した。
（メイン料理、添え物も使用）

引き続き olive、びすた〜り向けのハンバーグ、牛スジカレーを製造、卸を行った。
スタッフの仕事としては、玉ねぎの皮むき、真空作業など、単価が高い為、良い収入になった。

② 調理場内のスタッフの作業について

フードマーケットの調理場で作業するスタッフは昨年度と変わらず、それぞれ安定して仕事をしている。包丁を使って野菜を刻む作業も口頭の指示だけでできその出来栄も良くなっている。また HACCP の記録も忘れずに記入してくれて大いに助かった。調理場スタッフ増がずっと課題となっている。

③ 売上向上とコスト削減などへの取り組みについて

原材料高騰への対応策としてランチメニュー作成での肉、魚の主材料の使い方を工夫した。具体的には揚げ物の回数を減らし油を節約する事、肉、魚の一人当たり使用量を減らす代わりに野菜を増やし料理自体のボリュームや見栄えは変わらないようにした。こうした積む重ねで食材原価を抑えるようにした。また畑での収穫作業やバックヤードの作業との連携を行った。

4. バックヤード（2階での作業）

スタッフ皆が長年バックヤード作業をしているため、ある程度勝手もわかってきている。階段の上り下りに関しても、自分で買い物かごを準備して危険のないように降りるなど自発的に行えている。

作業の際の準備、片づけ（椅子の片づけ、机の移動、ビニールシートの準備など）も極力スタッフが自主的に進めるように心がけた。自発的に動くことが難しいスタッフに対しては最低限の声かけ、重いものを持つのが難しいスタッフには机拭きやシートたたみなどスタッフの特徴に合わせた作業を行うようにした。

① 収穫、仕入れた野菜・・・選別、計量、袋詰め、値札貼り付け作業など、スタッフを分担して作業を行った。

選別は大まかな選別から細かい選別まで、スタッフの得意な物に応じて流れ作業で担当してもらい、最終的にパートナーが最終チェックを行うよう心掛けた。

計量については指定した重さを記憶に留めておける為、以前のようにメモ用紙に書いておく必要もなくなっている。袋詰めに関してはニラなどばらけてしまうものが袋からはみ出て終わりにしている時もある為、今後も新聞で包みながら入れるなど練習していき、きれいな仕上がりになるようにしていく。

※セリ

販売用のセリは毎週 1/3 カゴペースで仕入れていた為選別の時間もあまりかからずで
きた。いな穂様用のセリも選別済みのものをそのまま配達。

② JhoJho 食材用野菜の下処理

野菜の皮むき、セリの根っこ切り等。選別や計量よりも好きなスタッフが多く、積極的
に引き受けてくれた。必要な道具なども準備し、すぐに取り掛かることが出来ていた。今
後の課題として、どうしても時間を気にせずマイペースで進めてしまうことが多いので、
締め切りの時間に間に合うように取り組めるような支援を考えていきたい。

③ 内職作業・・・今年度はなし。セリの入荷がない場合や収穫の谷間の時期などに行える よう、検討していく。

④ 袋の作成

収穫物が多い時期などにはまとまった量を作れないため、野菜の作業が少ない時期に作り
ためをしておく。工程の最後まで折ることが難しいスタッフには工程を分け、途中の簡単
な折り作業までを担当してもらうようにした。筍のシーズンには大きい袋を大量に使う為、
来年以降は春までに十分な在庫を確保できるように準備しておく。また、JhoJho の売店で
使用する紙袋作りも並行して行った

⑤ その他

- ・作付け用の種まき…今年度はなし
- ・外冷蔵庫掃除、駐車場草取り…定期的に実施。

5. C a f e J h o J h o

2024 年度はスタッフ複数名の長期間欠勤やパートナーの不調や怪我や退職など人手不足
を感じながらの 1 年だった。そんな中 11 月～3 月にボランティアさんの助っ人があり助
けられた。

店舗は今年度も席数は減らしたまま営業し、感染防止対策を継続した。

検温は、引き続き自宅と JhoJho での検温をお願いし表に記入他、朝礼時にパートナーが検
温し体調の確認を行った。朝礼時の検温で高熱を確認し帰宅することもあり、パートナー
確認は引き続き必要であることを再認識した。

作業後の休憩室での密も避けるように時差退勤を継続した。

① 利用状況

前年度同様、感染防止対策での席数減や作業内容によりランチタイムは忙しく動き回る日も多かった。特に6月～11月は混雑する日が多くあった。繁忙時間は店内入り口も混みあうため、換気も兼ねて、店舗入り口ドアを開けておくことで、入店を迷っているお客様へお声がけしやすいようにした。職員さんは混雑を避け少し時間をおいてから再来店していただけた。病院関係者様の他、一般のお客様もご利用いただけた。

お席待ちのお客様に関しては、事前に注文を取ることで席に着いたらすぐに提供されることが浸透しているので、待たずに帰るお客様はほとんどいなかった。

アレルギーがあるお客様や糖質制限をしているお客様に他メニューのお食事を準備したり、ごはんの計量や、サラダに変更、高齢のお客様には刻みの対応などお客様が離れないよう柔軟な対応を行った。

デザートはたくさんのお客様に注文いただき、特にチーズケーキの注文が増え週に1、2回仕込むようになり、スタッフが関わる作業の1つとなった。

売店利用は、はなみずき入居の常連のお客様、一般のお客様、職員様にもご利用いただけた。はなみずき入居者の方の他にも、ご高齢のお客様も多く、物忘れなども増えており必ずメモを取ったり、お席での先会計などを行いトラブルを避けた。

お席に着く際にパートナー対応が必要なお客様もおり他のお客様への対応がおろそかになったり、料理やドリンクの提供が遅れるなど苦情にならないよう努めた。長町病院通院のお客様で尿漏れや強い尿臭があるお客様が定期的に来店。椅子や座る席など工夫し周りのお客様が不快にならないよう配慮をした。

② スタッフの状況

今年度はパントリー1名、調理場1名のスタッフが長期の欠勤をした。また調理場1名のスタッフは自身の不調での欠勤の他、ご家族の入院や自宅療養で欠勤することもあり、調理場のスタッフが安定しない日々が数か月続いた。

1月に調理場1名入所（週1/13：00～16：00勤務からスタート）

3月末現在、JhoJho専属スタッフは毎日出勤のスタッフが3名、週4出勤のスタッフが3名、週3出勤のスタッフが2名の8名。FMから火曜日と木曜日JhoJhoフル出勤スタッフが1名、FMから1h助っ人スタッフ6名で対応した。

安定して通所出来るスタッフ、目標日数通りに出勤が難しくなっているスタッフ、体調の変化があり休憩をするスタッフがいる中、任せられる仕事を増やせるように新しい作業にも挑戦した。一人ひとりしっかり力を付けることができた。出来る事が増えたことで負荷がかか

らないように繁忙時間帯以外は自分のペースで休憩の回数・時間を決めて無理のないように過ごした。

JhoJho 在籍スタッフ一人ひとりの作業量増加やスピードアップは現状をキープすることが目標となっている。

また、週5日通うことが出来ない方、精神的な部分で体調が安定しない方もおり、FM のスタッフ・パートナーの力を借りなければ難しい現状は変わらない。

ステップアップを目指すスタッフは見学や実習を行った。まだ、就労へは繋がっていないが継続し挑戦していく。

スタッフ配置人数状況 (3月末現在)

	ホールフル	調理場フル (短時間)	パントリー洗い物 12時半～15時	FM 助っ人 12時～13時
月	3名 11～16 1名	1名 10:00～11:00 1名 11:30～14:30 1名 13:00～16:00 1名	1名	2名
火	1名 10～14 1名	1名 15～16 1名		3名
水	3名	0名 10～14 1名 13～16 1名		1名
木	1名 10～14 1名	1名 10～14 1名 15～16 1名	1名	1名
金	1名 10～14 1名	1名 10～14 1名 13～16 1名 15～16 1名	1名	2名

③ ホール・パントリー

お肉とお魚はご飯・味噌汁がお盆に載った状態の配膳はホールスタッフ2名。荷物が多いお客様やテーブルが狭い場合などはパートナーが配膳した。

ご飯・味噌汁のお替りのお客様へ丸お盆でお持ちすることは今年度も練習し任せられるようにはなった。

接客以外の仕事として、野菜や販売商品をフードマーケットに取りに行く（JhoJho 便）。伝票の色塗りや値札切り。一つの作業の継続が難しい方には何種類かの作業を準備し選りながら作業してもらうことは継続して行った。売店商品用の新聞袋に貼るカメさんシールの色塗りはスタッフの楽しい作業にもなっており、お客様からも喜ばれている。

① 調理場

開店当初から使用していた、電磁調理器の1つが壊れてしまい、残りの1つと家庭用の電磁調理器を使用しての調理となった、そのため、メニューも揚げ物ができない期間が続いた。

メニューは継続し日替わりの肉、魚セット、定番として、カレーライス、季節で変わるう～めん、う～めんダブルを提供した。

ランチ前の時間にご利用いただける「鶏がゆ」と「トーストセット」は楽しみに来てくれるお客様、検査の為に朝食を抜いてきた患者さんから大変喜ばれた。

単品でのご注文や、ソースなし、汁を薄めて、酢を付けて、細かく切ってなどお客様からの要望にできる範囲で対応した。

ごはん味噌汁をよそう作業は、ご飯の量の指示が細かく味噌汁也多めの注文や、おかわりもあるため対応力とスピードが求められ、対応できるスタッフは1名だったが、今年度入所したスタッフも対応できるようになった。

準備、盛り付け、計数、片付けなど一日の作業をスタッフが行えるようになったため任せしているが、最終確認はパートナーが行った。

メイン料理の盛り付けでは、個包装になっているものはスタッフ1人でも盛り付けが出来た。

大袋で計量しながらの作業は、種類が一つだと計量しながら盛り付けることが可能だが、複数種類が入っていると肉だけや野菜だけのように偏ってしまうため難しかった。出勤人数やメンバーに合わせて工程など考え FM 調理場と連携し、スムーズに提供できるようにした。

スタッフの仕事として野菜の皮むきやカット作業を FM と連携しながら用意できるよう

にした。また、味噌汁の具材作りなども行った。

衛生面に関しては、手洗い・消毒の習慣が出来てきている。作業途中の声掛けでも出来るようになったが、洗いはパートナーからの声掛けがないと指先を水に触れさせるのみで終わらせてしまうケースも度々見られる。

同じ皿や箸を使ってしまうため、使い終わったものを置く場所を明確にして使い回しをしないように徹底した。

HACCP の記録をスタッフの仕事にすることで衛生面を意識し気を付けていけるようにした。

② 価格変更

2023 年 4 月以降値上げをせずに営業を行ったが物価の高騰が続き、値上げの検討を行った。今年度中は検討のみとなったが来年度は値上げに向けて動きたい。

6. 年間行事

- ・季節の行事・・・団子をたべよう！！(5 月)
カレーを食べよう！！(8 月) 芋煮を食べよう！！(11 月)
お餅を食べよう！！(1 月)
- ・支援計画面談・・・年間各スタッフ 2 回
- ・検便・・・・・・・・4 月、10 月(年 2 回)
- ・避難訓練・・・火災、地震、水害(垂直避難) FM、JhoJho

2024（令和6）年度 相談支援センターほっぷの木事業報告

1. 実績

相談支援専門員2名体制で登録。加算等考慮し毎月のモニタリングやリプラン・更新以外に通院同行や入院時の情報提供等をしっかり対応した。

対応件数と給付費に関しては月によって波はあるが、毎月20～35件対応し、40～50万円前後の請求になっている状況。

<各月の件数と報酬金額>

	継続支援	利用支援	月合計	報酬金額
4月	23	4	27件	446,919円
5月	18	7	25件	455,102円
6月	15	9	24件	437,956円
7月	22	4	26件	462,882円
8月	26	6	32件	592,775円
9月	21	9	30件	507,782円
10月	25	6	31件	572,325円
11月	21	0	21件	361,148円
12月	19	6	25件	498,873円
1月	26	9	35件	590,911円
2月	27	9	36件	659,949円
3月	24	4	28件	506,311円
総合計	267	73	340件	6,092,933円

2. 対応件数

実登録者数が令和7年3月末の時点で69名。令和6年度の新規対応者は5名。各月の対応件数は上記の表を参照。

登録者69名のうち法人内は19名（FM：9名、ほっぷ・あぼかぼ：1名、ほっぷの実：3名、olive/びす：6名）となっている。

利用者の障害別、住居別（支給決定区）、年代別に関しては下記の表の通り。

【障害別】 ※重複して手帳取得している方も含むので、実登録者数とズレが生じます。

障害種別	知的	精神	身体	難病
人数	38	27 (内高次脳：15) (内若年性認知：3)	12 (内高次脳：7)	5

【住居（支給決定区）別】

区	青葉区	宮総	太白区	宮城野区	若林区	泉区	その他
人数	20	3	21	11	5	8	1

【年代別】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
女	0	2	10	3	7	0	0
男	0	5	11	13	11	6	1
合計	0	7	21	16	18	6	1

3. 相談内容

毎月のように新規の問い合わせはある状況。法人内の新規の方に関しては少しずつ対応していくことを検討しているが、他法人の新規の方に関しては状況を聞いた上で、すぐに対応できない時はできるだけ他の相談支援事業所につないでいけるよう対応した。

本人やご家族の高齢化に伴いサービス事業所の変更やサービスの追加や就労からA型・B型、グループホーム入居のようにサービスの種類の変更や追加を行うケースが増えてきている。また、病気の再発や疾病の進行の伴い介護保険サービスとの併用や介護保険サービスへの移行等も出てきており、地域包括支援センターや居宅介護支援センターとの連携も密に行った。

いずれにしても見学や体験を通し、ご本人やご家族の希望を確認しながら対応実施。

4. 他機関との連携

担当件数のうち7割以上の方が法人外の方のため、細やかに連絡を取らせて頂き普段から情報共有を行っている。訪問時はその月の対象者だけではなく、他に担当している利用者の方々にもできるだけお会いできるよう調整し、様子を確認させて頂いた。

事業所と相談して、外来通院や入退院等考えられる方に関しては、通院先の相談員の方や主治

医、訪問看護とも情報共有を実施。

介護保険サービス事業者との連携も大切になってきており、本人の高齢化だけでなく、ご家族の高齢化に伴い、多方面から生活環境を整える必要がある場合もあるので、地域包括支援センター等に相談させて頂くことが増えている。

その他行政や金銭管理サービス・後見人等、関わっていただいている機関とはしっかり連携が取れるよう顔合わせを行い、電話連絡やその他書面でやり取りを実施。

サービスの支給決定のみで利用に繋がっていないケースなどは、委託の相談支援事業所に一般相談として受けて頂けるよう情報共有し、無理のない対応依頼を行った。

5. 会議や研修

今年度はWEBの他に対面での会議等の開催も増えた。ほっぷの木の利用者や関わっている事業所は全区にいたので、できるだけ仙台市開催の他にも各区で開催している様々な会議に参加し、計画作成の手法や各種サービスの活用法を学び相談者への対応に活かし、相談支援の『質の向上』を図った。同時に、参加者との交流を行い『横のつながり』をしっかりと作り、支援につなげるようにした。訪問の合間に参加することが難しい際は、関係機関の方々とお会いする機会に情報交換等を行った。

・参加会議

仙台市障害者自立支援協議会、各区自立支援協議会実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい等）、なごやかネット、よめごと会議、みんなのふれあい福祉ネットワーク、青葉区相談支援連絡会サポネットあおば相談支援会議、青葉区アルコール関連問題研究会等
また、令和6年度に実施された、相談支援専門員の「主任研修」へ申し込みを行ったが、定員枠や県内の優先順位もあると思われ受講に繋がらなかった。今後に向けてはまずは現任研修を受講し、相談支援が切れ目なく行えるようにしていく。

相談支援センターほっぷの木

相談支援専門員 針生里美